SYLLABUS

2022 年度 春学期

3年次

青森公立大学

経営経済学部

教員メールアドレス一覧

専　任　教　員	
氏名	E-mailアドレス

専　任　教　員	
氏名	E-mailアドレス

教員メールアドレスは、
事務局前に配置しますので
各自受領してください。

目　　次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
教養科目		仏教の思想	(4)	選必	【2022年度秋学期開講予定】	―
		メディアとジャーナリズム	(2)	選必	河田　喜照　ほか	1
		民法	(4)	選必	髙橋　基樹	4
キャリア教育科目		事業論Ⅱ	(1)	選必	小田切　勇治　ほか	8
専門科目	経営学科	グローバル経営論	(2)	選必	【非開講】	―
		会社法Ⅰ	(2)	選必	白石　智則	10
		組織学習論	(2)	選択	丁　圏鎭	13
		監査論	(4)	選択	紫関　正博	16
		税務会計Ⅰ	(2)	選択	金子　輝雄	20
		財務戦略	(2)	選択	【非開講】	―
		商業実習	(4)	選択	砂場　孝一郎	23
		地域企業論Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	生田　泰亮	61
		地域社会論Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木　てる	64
		環境経済学　【他学科展開科目】	(2)	選択	青山　直人	27
		地域経営論　【他学科展開科目】	(2)	選択	足達　健夫	30
	経済学科	金融経済学Ⅱ	(2)	選必	國方　明	33
		地域経済学	(4)	選必	樺　克裕	36
		産業組織論	(4)	選必	【2022年度秋学期開講予定】	―
		実証経済分析	(2)	選択	高　英模	40
		環境経済学	(2)	選択	青山　直人	27
		ファイナンス理論	(2)	選択	國方　明	43
		社会保障論	(2)	選択	大矢　奈美	46
		経済特殊講義Ⅲ	(2)	選択	堤　静子	49
		会社法Ⅰ　【他学科展開科目】	(2)	選択	白石　智則	10
		財務戦略　【他学科展開科目】	(2)	選択	【非開講】	―

目　　次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
専門科目	地域みらい学科	会社法Ⅰ　【他学科基幹科目】	(2)	選必	白石　智則	10
		地域の産業Ⅱ	(2)	選択	松田　英嗣	52
		地域経営論	(2)	選択	足達　健夫	30
		自然史・地理情報と地域創造	(2)	選択	【非開講】	―
		地域みらい特殊講義Ⅱ	(2)	選択	柏谷　至	55
		経営革新論Ⅰ	(2)	選択	生田　泰亮	58
		フィールドリサーチⅡ	(2)	選択	足達　健夫	―
					飯田　俊郎	
					生田　泰亮	
					香取　薫	
					佐々木　てる	
					長岡　朋人	
					三浦　英樹	
					安田　公治	
					遠藤　哲哉	
		マクロ経済学　【他学科展開科目】	(4)	選択	山本　俊	67

目　　次

2020年度及び2021年度入学生へ（学籍番号の上位４桁が「1200～」「1210～」で始まる学生）

（１）「自然史・地理情報と地域創造」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「地域ＩＣＴ戦略論」の読替科目です。

（２）「経営革新論Ｉ」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「経営革新論」の読替科目です。

2019年度以前入学生へ（学籍番号の上位４桁が「1170～」「1180～」「1190～」で始まる学生）

（１）「金融経済学（４単位）」の履修について
①春学期開講の「金融経済学Ⅱ（３年次科目、２単位）」を履修登録してください。
②秋学期開講の「金融経済学Ｉ（２年次科目、２単位）」を履修登録してください。
③春学期と秋学期を総合して成績評価を行い、2019年度以前入学生カリキュラム「金融経済学（４単位）」の履修として取り扱います。
④成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。
　※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。
　※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

（２）「自然史・地理情報と地域創造」は、2019年度以前入学生カリキュラム「地域ＩＣＴ戦略論」の読替科目です。

（３）「経営革新論Ｉ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「経営革新論」の読替科目です。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
メディアとジャーナリズム	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
河田　喜照　他	**時間:** **場所:**	講義

〔科目の概要〕

・この講義では、マスメディアが、その社会的使命である「ジャーナリズム」をどう実現しようとしているかオムニバス方式で解説する。東奥日報社の記者経験者や広告・販売の担当者らが登壇、現場の情報を通じてメディアとジャーナリズムに対する理解を深めてもらう。
・青森県の各メディアを紹介しながら、地域社会におけるメディアの役割を考える。
・ネット社会における情報伝達手段の変化と問題点を指摘し、メディアリテラシーを育てることを意識していく。
・文化支援事業など地域メディアが果たしている役割も紹介していきたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

民主主義社会において、正確な情報を市民に伝達する機能は不可欠である。その役割を担うメディアについての理解は主権者として必要な素養である。一方で、ネット社会の進展により、従来のマスメディアが担ってきた情報伝達の方法は大きく変化している。ネット空間では玉石混交の情報が飛び交い、フェイクニュースと呼ばれる虚偽情報、またフィルターバブル(自分の興味のある情報ばかりが集まる現象)などが問題になっている。かつてないほどメディアリテラシーの必要性が高まっており、その向上に役立つ機会としたい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標
・近代におけるジャーナリズムの成立から現在にいたる歴史を知り、メディアを客観的にみる視点を育てる。
・新聞社やテレビ局などのマスメディアが果たしている社会的役割を知る。
・現場の活動を知ることで、マスメディアの機能に対する正確な知識をもってもらう。
・報道活動が抱える問題点について理解する。
・Yahoo、Google など巨大 IT 企業によるニュース提供と既存メディアのかかわりを理解する。

最終目標
・われわれの社会におけるジャーナリズムの機能と問題点を理解する。
・メディアリテラシーを高め、健全な市民・社会人としての素養を身につける。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

■

〔教科書〕

特になし

〔指定図書〕

特になし。

〔参考書〕

東奥日報、ホームページ「WEB 東奥」、「東奥日報スマホサイト」「東奥日報アプリ」、SNS など。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

出席率および最終リポート課題で評価。

〔評価の基準及びスケール〕

学生便覧の通り:

A: 80%以上、　B : 70%以上、 C: 60%以上、 D: 50%以上、 F: 50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・新聞社やテレビ局など、いわゆるマスメディアの報道活動は、若い世代に正しく理解されていないところが多分にある。メディアに携わる人たちがどんなことを考え、どんな活動をしているのか理解してもらえるよう努力する。また Yahoo、Google など巨大 IT 企業への情報提供や SNS の進展の中で起きていることについても説明する。時事的な内容も織り交ぜながら現場の声を伝えていくので、メディアとジャーナリズムについて理解を深める機会にしてほしい。

・複数の講師によるオムニバス形式のため、都合によって講義の順番が前後することがある。あらかじめ了承していただきたい。

〔実務経歴〕

新聞記者、デジタル編集者、広告担当者、新聞販売担当者、イベント・出版担当者ら。

授業スケジュール

第1回	テーマ(はじめに): 内　容: メディアの意味やジャーナリズムの理念について。国内の主なメディアとその特性を伝え、国内・青森県内の新聞、テレビ、ラジオ、雑誌を紹介。動画を使いニュースができるまでの基本的な流れをつかんでもらう。またネットメディアによるニュースの現状と進展の状況にも触れる。 教科書・指定図書 なし
第2回	テーマ(NIB＝Newspaper in Business＝実践1): 内　容: 前編～よく分かる新聞の読み方。NIB は学生や若いビジネスマンに役立つ新聞の活用方法を伝える取り組み。初回は新聞の読み方。読者が読みやすいように工夫された紙面づくりのルールや紙面の性格を解説し、楽しく役立つ新聞の読み方を知ってもらう。 教科書・指定図書 なし
第3回	テーマ(NIB＝Newspaper in Business＝実践2): 内　容: 後編～記事から学ぶ文章術。記者が文章を書くときに、どんなことに気をつけているのか。「定型のワナ」や「原稿を書き上げて安心のワナ」など、経験をもとにした文章を書く上で留意したいポイントを伝える。報告書やリポート作成に役立つヒントを伝えたい。 教科書・指定図書 なし
第4回	テーマ(ジャーナリズムの歴史): 内　容: 近代ジャーナリズムの歴史について。17 世紀のイギリスにおける市民社会の成立と新聞ジャーナリズム。日本における江戸時代の落首や瓦版の考察、明治政府の牧民思想に対する自由民権運動と新聞のかかわり、戦時中の検閲と一県一紙令、戦後のあゆみ。3 権分立とジャーナリズムの役割。 教科書・指定図書 なし
第5回	テーマ(住民に寄り添う地方紙の役割) 内　容: 地方紙は、地域との距離が近いからこそ地域の課題や良さをきめ細かく報道することができる。医療福祉分野で主に取材してきた記者の経験を踏まえ、住民と同じ目線で報道する地方紙の役割の大切さを考える。コロナ報道についても触れる。 教科書・指定図書 なし
第6回	テーマ(紙とデジタル～東奥日報の事例から): 内　容: 新聞社におけるデジタル展開の歩み。Web東奥から東奥日報アプリまで。デジタル報道の現況。自社サイト、ヤフーなど外部配信、SNSなど。新型コロナ報道とデジタル～空前のアクセスが意味するもの。紙とデジタル～「偏りのない情報摂取」のために ほか。 教科書・指定図書 なし教科書・指定図書 なし

第7回	テーマ(ネット情報とメディアリテラシー): 内　容: フェイクニュース、ディスインフォーメーションの考察。アメリカの米連邦議会乱入事件や熊本地震の猛獣脱走騒ぎなどを例に、ネット情報の危うい面を認識する。またSNSの使い方とフィルターバブル、エコーチェンバーなどデジタルメディアを利用する際のワナについても考えてみる。 教科書・指定図書　なし
第8回	テーマ(事件・事故と司法手続き): 内　容: 新聞やテレビで日々報道される事件や事故。報道における大きな分野だが、その取材体制はどうなっているのか舞台裏を紹介する。また逮捕や送検、起訴、裁判など司法手続きを理解することで事件・事故のニュースに対する理解を深めてもらう。 教科書・指定図書　なし
第9回	テーマ(新聞の文化面・生活面は何を伝えてきたか): 内　容: 才能を掘り起こす、応援する、批評する、発表の場をつくる新聞の文化面。東奥日報が伝えた太宰や寺山から、近年の県人作家らの活躍を中心に紹介。暮らしに寄り添う、一緒に考える生活面。コロナ禍で求められたことなど。 教科書・指定図書　なし
第10回	テーマ(スポーツと郷土愛): 内　容:スポーツ新聞はアジアだけに存在するメディア。オリンピック、アジア大会等の世界大会及び国民体育大会、全国高校野球選手権等の国内大会の取材体験を通して、スポーツとメディアが地域にもたらす意義、役割を考察する。 教科書・指定図書　なし
第11回	テーマ(テレビ、ラジオの報道): 日本の放送メディアについて紹介する。放送法第4条の存在による新聞や雑誌、ネットメディアとの違いを知ってもらう。またニュース報道とワイドショー(ニュースを使った娯楽色の強いテレビ番組)の違い、広告で成り立つ民放の構造などについて説明し、放送メディアについてのリテラシーを高めてもらう。 教科書・指定図書　なし
第12回	テーマ(地域ジャーナリズムの役割): 内　容: 地域ジャーナリズムについて考える。ローカル記事の需要と「劇場効果」による共感性。スクープの種類、行政に対するチェック機能を知る。また地元紙が消えたアメリカの地方都市で起きたことなどを例に地域ジャーナリズムの役割をあらためて考える。 教科書・指定図書　なし
第13回	テーマ(青森県と基地): 内　容: 沖縄に次いで「第2の基地県」と呼ばれる青森県。米軍・自衛隊の基地と関連施設は多数に上り、機能は複雑多岐にわたる。新冷戦時代と呼ばれる中、その実態を説明するとともにマスメディアがどのように報じてきたのかについて紹介する。 教科書・指定図書　なし
第14回	テーマ(ジャーナリズムの問題点とジレンマ) 近年、報道に対する市民の目線が厳しくなっている。有名な「ハゲワシと少女」の写真をめぐる議論などを例にジャーナリズムが抱えるジレンマについて学ぶ。また政治的スタンスの違いと報道、集中報道への批判、実名報道と匿名報道、記者クラブの役割など、報道が抱えるジレンマ、問題点について考えてもらう。教科書・指定図書　なし
第15回	テーマ　(おわりに) ジャーナリズムが守るもの。ジャーナリズムの展望。 教科書・指定図書　なし
試　験	課題リポートを課す

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
民 法	4 単位	教養科目 （第２群）文化と社会

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
髙橋 基樹 TAKAHASHI, Motoki	**時間： 講義開始後に指示する。** **場所： 617 研究室**	講義形式中心

〔科目の概要〕

法を学ぶとは何か。法とは、基本的には、「～すべし」というルールであり、一般的に、それに従わなかった場合には国家権力による強制もしくは制裁が加えられる。それゆえ法学とは、「何が正義か」を探究する学問であると言える。本授業では、こうした「法」の定義を理解したうえで、私たちの生存する社会・日常社会との関わりに着目し、あらためて「法とは何か」、「正義とは何か」について探究する。具体的には、日常生活に関する法律である「民法」を取り上げ、日常の売買契約や賃貸借契約などの取引といった契約事項・経済活動をめぐる裁判事例等の具体例を取り上げて、法および法律が私たちの日常生活と深く結びついていることを理解する。また「民法」は、結婚による家族形成や、家族の死去による相続といった家族関係の問題についても規定していることから、こうした家庭における日常生活において法および法律がどのように機能しているのかについても学ぶ。これらを通じて「民法」という法律のあり方・その効力について理解し、「民法」という法律の特徴を学ぶことを目的とする。

なお「民法」という法律は、日常生活において私たちが「自由」に生活できることを念頭におき、あるべき「正義」、すなわち日常生活におけるルールを定めて機能している。そこで、こうした「民法」の役割を十分に認識したうえで、「民法」におけるルールの守り方（コンプライアンス）と「民法」という法律の特徴について学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

「民法」は、法律の中でも私たちの日常生活に密接に関連する事項について規定している規範であることから、日常生活におけるトラブルに対応できるような知識を、本科目を通じて身に着ける。具体的には、売買におけるトラブルにあってしまったときにどのような対応をすべきか、家族が亡くなってしまったときの相続トラブルに巻き込まれたら、どのような対応が可能かについて学び、将来の自身の日常生活に役立てられるようにする。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

第一に、「民法」という法律の存在意義を理解し、その機能のあり方を認識することを中間目標とし、最終的には以下の事項を習得することを最終目標とする。

（１）法学に対する基礎的な知識を修得し、「法」および「法律」という規範の意味を認識する。
（２）「民法」という法律が、日常生活においてどのようなルールとして具体的に機能しているかを学ぶ。
（３）社会における問題について関心をもち、民法学の知識・理解を通じて、自らの日常的な問題に対する解決方法を検討し、導出する能力を修得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

本科目で取り扱う講義内容の理解の定着を促すために、重要な点について繰り返し説明を行う。これに対して例年の授業評価アンケートでは、理解が深められるとの肯定的な意見もある一方で、復習に割かれる時間が長く、講義内容の進行が遅いという指摘もあることが多い（前年度も同様であった）。そのため、理解の定着を促すための時間配分と、講義の進行状況を考えながら、今後は適切な講義を行うことに努めたい。また教員の声量等の問題への指摘も例年あるが、今後はできる限り履修者全員が授業内容を理解できるような声量および声の速度で講義を行うように心がけるようにする。また網羅的に「民法」の講義を希望する意見もアンケートのなかにはあったが、1050 条もの規定を有する「民法」の条文の逐条解説を講義することは困難である。そこで、主に「民法」という法律の特徴を理解できるようにするための講義を行う。この点についてはご理解いただきたいと思う。

〔教科書〕

六法（種類は特に問わない。たとえば『法学六法22』（信山社、2021 年）など）
（＊なお、講義は教員が作成したレジュメを主に用いた講義を行う予定である。）

〔指定図書〕

講義中に紹介する。

〔参考書〕

潮見佳男『民法（全） 第２版』（有斐閣、2019 年）
道垣内弘人『リーガルベイシス 民法入門〔第３版〕』（日本経済新聞出版社、2019 年）
田中嗣久・田中義雄・大島一悟『民法がわかった〔改訂第５版〕』（法学書院、2019 年）
田中嗣久・大島一悟『民法改正がわかった〔補訂版〕』（法学書院、2019 年）
生田敏康ほか『民法入門 〔第２版〕』（法律文化社、2021 年）
伊藤真『伊藤真の民法入門 第７版』（日本評論社、2020 年）
など。上記以外は講義中に紹介する。

〔前提科目〕
な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
定期試験の結果だけでなく、通常授業時における受講生の理解度や積極的な出席態度等（主にコメント・ペーパーの提出等に基づく）を評価対象として、総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕
授業に対する取り組み姿勢および授業内での理解度把握のための提出物による評価(毎回の授業後に復習問題を提示する予定であり、全30回のうち数回、この復習問題の解答の提出を求める予定である。この正答率をここでの主な評価の対象とする。）10%、後半の講義回で実施予定の小テストの結果（授業内提示の復習問題を基盤にした問題で作成される予定である。）30%、期末定期試験60%の割合で成績評価を行う。50%以上取得した者に対して単位認定する。なお上記の成績対象においては、民法学に対する基礎的な知識を身につけ、理解ができているかどうかが主な評価基準であり、その上で、自身の意見や考え方を有すことができているかどうかが補足的な評価基準である。(＊なおこの基準は、新型コロナ・ウイルス対策等のための講義展開の変更に伴い、変更される場合がある。)

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
授業内で取り上げる民法をめぐるトピックスについては、受講者の希望をできる限り取り入れ、現在起きている社会問題について新聞記事などを活用して取り上げたいと考えているので、随時提案してもらいたい。そのため、最近の憲法をめぐるニュースについて関心をもつことを期待する。
また、授業内容については、授業の進捗を勘案して適宜調整することがある。また受講者の習熟度によっては、授業内容を変更することもある。

〔実務経歴〕
該 当 な し

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンス・法とは何か・民法とは何か 内　容:初回ガイダンスをかねて、法とは何か、民法とは何かを考え、それぞれの意味を検討する。その際、「法」とは必ず守るべきものと定義されるのかについて検討する。 教科書・指定図書　レジュメを配布予定。準備学習として、民法とはどういった法律なのか、イメージをもって授業に臨むこと。また、**本シラバスに基づいたガイダンスを行う予定のため、本シラバスを必ず持参**のこと。
第2回	テーマ(何を学ぶか):民法における「私的自治の原則」と日常生活における民法の遵守 内　容:民法について、「私的自治の原則」をキーワードとして、「民法＝日常生活における遵守すべき法」の意味を理解する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第3回	テーマ(何を学ぶか):民法上の権利主体としての「人」 内　容:日常生活において、自分自身の権利を主張できる「人」とは一体どのような存在であるのかについて講義し、権利の発生始期と終了期について学ぶ。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第4回	テーマ(何を学ぶか):民法上の権利主体としての「自然人」と「法人」の区別 内　容:民法上の権利をもつものとして、「自然人」と「法人」のちがいについて講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第5回	テーマ(何を学ぶか):制限行為能力者（未成年・被後見人・被保佐人・被補助人）の権利と契約行為 内　容:民法上に定められた、成人とは行為能力が異なる「未成年者」・行為が制限される者の権利の保障の在り方について学び、考察する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第6回	テーマ(何を学ぶか):民法上の「人」と「物」との関係 内　容:民法上、定義される「物」とは何かについて講義し、この「物」と「人」との関係について理解を促し、「物」の支配権について学ぶ。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第7回	テーマ(何を学ぶか):意思表示による権利変動・法律行為 内　容:自分自身が所有する「物」について、誰かに譲渡するなどの意思表示を行うことで権利が変動し、法律行為が成立することを講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。

第8回	テーマ(何を学ぶか):契約の成立と解除 内　容:自分自身が所有する「物」を誰かと売買する「契約」はいつ成立するのか、成立した後に、それを取りやめることはできるのか、取りやめることでどのような責任が生じるのかについて講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第9回	テーマ(何を学ぶか):さまざまな契約のあり方 内　容:民法上に定められている典型契約(売買・贈与・賃貸借・役務提供など)について講義し、民法上で想定される当事者の公平という観念について考察する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第10回	テーマ(何を学ぶか):代理制度の意義と種類 内　容:本人に代わって、法律行為を行う「代理制度」の意味について検討する。そのうえで、権限のない者が行った代理についてはどのように解決すべきかについて考察する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第11回	テーマ(何を学ぶか):契約における意思表示の不存在 内　容:「契約」を行おうとする者が、自身の思い違いで「契約」を行った場合にどのような形でそれを取りやめることができるのかについて、具体的に講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第12回	テーマ(何を学ぶか):契約における意思表示の瑕疵 内　容:誰かに騙されたもしくは強要されて「契約」を行ってしまった場合にどのような形でそれを取りやめることができるのかについて講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第13回	テーマ(何を学ぶか):「無効」と「取消し」と「解除」のちがい 内　容:「契約」に対して、その効果を失う「無効」と「取消し」と「解除」の各々の意味について、理解を深められるように講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第14回	テーマ(何を学ぶか):法律行為と時間との関係 内　容:法律行為を行う上で、いつから法的効力が発生するか等について確認したうえで、たとえば条件や期限付の法律行為が可能か、期間の定めを不明瞭に行う法律行為は成立するかを取り上げて講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第15回	テーマ(何を学ぶか):時効制度の意義と種類 内　容:「契約」等の法律行為に対する時間的な有限性について、時効制度から講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第16回	テーマ(何を学ぶか):物権という権利を定義する意義と物権変動 内　容:物を所有し、支配する権利としての「物権」の意義について捉え、契約に基づく物権変動とその意思との関係について講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第17回	テーマ(何を学ぶか):動産の物権変動と不動産の物権変動 内　容:動産に対する物権変動と不動産に対する物権変動とのちがいについて、動産と不動産の差異を学んだうえで理解する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第18回	テーマ(何を学ぶか):動産・不動産の二重譲渡の問題 内　容:一つの「物」について二者以上に対して譲渡の契約が結ばれた時に、その「物」の「物権」は誰が有するのかについて講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第19回	テーマ(何を学ぶか):第三者の悪意による契約介入の問題 内　容:横取り様な契約の介入を行った第三者に対する物権変動が認められるのかについて講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第20回	テーマ(何を学ぶか):占有権と所有権 内　容:「物」に対する「占有権」と「所有権」という権利のちがいについて講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。

第21回	テーマ(何を学ぶか):共同所有の種類と内容 内　容:一つの「物」に対し、数人が持分を有して共同所有する場合について講義し、共同所有の意義について考察する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第22回	テーマ(何を学ぶか):用益物権の内容 内　容:「物」に対して自由に処分することはできないが、その利用価値を有することができる「用益物権」について講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第23回	テーマ(何を学ぶか):契約成立の問題と債権回収方法 内　容:「物権変動」の「契約」が締結されたが、債務が正当に履行されていなかった場合の債権回収方法について講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第24回	テーマ(何を学ぶか):担保物権の意義 内　容:自身の所有する「物権」に担保を設定することについて講義する。そのうえで、具体的事例を取り上げて、金銭の賃貸借において、「不動産を担保に金銭を賃借する」という意味について学ぶ。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第25回	テーマ(何を学ぶか):留置権・先取特権の内容 内　容:「物権変動」の「契約」が締結されたが、債務が正当に履行されていなかった場合の債権回収方法として設けられている「留置権」・「先取特権」について講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第26回	テーマ(何を学ぶか):民法上の親族の範囲 内　容:民法上で定められる親族の範囲（親等・血族・尊属・卑属など）について講義し、民法上、「親族」を定めることの意義について考察する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第27回	テーマ(何を学ぶか):家族形成に関する婚姻・離婚の制度 内　容:養子縁組・婚姻による家族形成と離縁・離婚による家族関係の終了について講義する。また、夫婦同姓・夫婦別姓問題、女性に対する再婚禁止期間に関する問題についても取り上げて検討する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第28回	テーマ(何を学ぶか):民法上の親子関係の成立 内　容:民法上の親子関係について、嫡出子・非嫡出子・養子の分類に従って講義し、法律上における子の区分の意義について検討する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第29回	テーマ(何を学ぶか):相続のあり方と相続人の資格 内　容:民法上の親子関係に基づいて行われる相続の際の相続人について講義し、相続は誰に対して行われるべきかについて考察する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
第30回	テーマ(何を学ぶか):相続分の保障と遺留分制度 内　容:民法上の主に親子関係に基づいて行われる相続の際の相続人の相続分は、民法上どのように定められているのかについて講義する。 教科書・指定図書　配布レジュメに基づく。
試　験	定期試験(第1～30回の講義内容を範囲とした、記号選択式の問題＋論述式の問題)

（様式１）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
事業論Ⅱ	１単位	キャリア教育科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
小田切　勇治 Odagiri　Yuji	**時間:　－** **場所:　－**	講義

〔科目の概要〕

この講義では、流通業が集積する協同組合青森総合卸センター（以下：問屋町）に勤務している講師が、実際に問屋町で営業している企業と連携してその業務内容を紹介し、それぞれの企業の取り組みを通じて、地域における流通業の役割や次世代につなげるためのさまざまな方策を考える。また自身の日々の生活との関連についてあらためて考え、自身のキャリア形成に繋げることを目的とする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

事業論Ⅰ、Ⅲ、自治行政政策論等とともに各業界・業種の理解を深め、さらにインターンシップに繋げることで自身のキャリア形成に役立てることができる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標

・問屋町の歴史、目的、事業、成果などの概要を説明できる。

・問屋町会員企業について、業種ごとの業務概要を説明できる。

最終目標

・流通業及び問屋町の役割を理解し、自身のキャリア形成に役立てる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

流通業及び問屋町について、スライド資料の見せ方も含めて、できるだけわかりやすく講義したいと思います。

〔教科書〕

配布資料

〔指定図書〕

特になし。

〔参考書〕

協同組合青森総合卸センターホームページ

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

毎回の授業内レポート 10％×7 回、最終レポート課題 30％

〔評価の基準及びスケール〕

学生便覧の通り：

A: 80％以上、B：70％以上、C: 60％以上、D: 50％以上、F: 50％未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

キャリア科目の講義として、普段みなさんが意識しない「流通業」について、実際に流通業を営む企業担当者と共に実学を中心に講義を行い、今後のキャリア形成にも役立つような授業を心掛けます。

7コマの出席を前提として最終レポート課題を設定しているので、7コマ出席できる学生の履修を望みます。特に1コマ目と7コマ目は出席が必須です。

〔実務経歴〕 流通業ほか	
授業スケジュール	
第１回	テーマ(何を学ぶか)： 問屋町とは 内　容: 問屋町の歴史・目的・事業、流通業などについて 教科書・指定図書
第２回	テーマ(何を学ぶか)： 卸業1 内　容: (食料・飲料)(医薬・化粧品)(身の回り・繊維・衣服)に関連する業種について学ぶ。 ※第２回～第６回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第３回	テーマ(何を学ぶか)： 卸業2 内　容: (機械・器具)(建築材料・鉱物)に関連する業種について学ぶ。 ※第２回～第６回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第４回	テーマ(何を学ぶか)： 卸業3 内　容: (日用雑貨・生活関連)(文具・事務機器)に関連する業種について学ぶ。 ※第２回～第６回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第５回	テーマ(何を学ぶか)： 卸業4 内　容: (運輸業)(サービス業)に関連する業種について学ぶ。 ※第２回～第６回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第６回	テーマ(何を学ぶか)： 卸業以外 内　容: (小売、冷熱機器、印刷、通信設備、建機レンタル等)に関連する業種について学ぶ。 ※第２回～第６回は内容が入れ替わることがあります。 教科書・指定図書
第７回	テーマ(何を学ぶか)： 全体のまとめ 内　容: これまでの総括と、流通業の今後について考える。・ 教科書・指定図書
試 験	課題レポートを課す

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
会社法Ⅰ		2 単位	
〔担当者〕 白石　智則	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本講では、「会社法２」の講義とあわせて、「会社法」（平成 17 年法律第 86 号）が定める基本的な法制度（特に株式会社の設立・株式）について学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続きパワーポイントを利用して講義を行います。

〔教科書〕
拙著『会社法の教科書』（自費出版）〔販売できない場合は、コピーを配布します〕

〔指定図書〕
な し

〔参考書〕
中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』(有斐閣、第２版、2021 年)
江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣、第８版、2021 年)
高橋美加ほか『会社法』(弘文堂、第３版、2020 年)
田中亘『会社法』(東京大学出版会、第３版、2021 年)
岩原紳作＝神作裕之＝藤田知敬編『会社法判例百選』(有斐閣、第４版、2021 年)
そのほかの参考文献については、最初の講義のときに紹介します。

〔前提科目〕
な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
授業内試験(小テスト(10%)と最終試験(90%))により評価します。
小テストを各講義日に実施します（全8回）。授業を聞いていれば分かるような、簡単な選択問題を出題します。Google Formを使用して試験を行いますので、指定のURLから受験してください。
期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出題します（持込不可）。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の３分の２以上出席していない者は失格とします。

〔評価の基準及びスケール〕
原則として、８０点以上をＡ、７０点以上をＢ、６０点以上をＣ、５０点以上をＤとしますが、平均点しだいで基準点を調整します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
熱意をもって受講してくれることを期待します。

〔実務経歴〕
な し

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか)：総論 (1) 内　容:企業、会社 教科書・指定図書　教科書(第１章ＩＩ)
第２回	テーマ(何を学ぶか)：総論 (2) 内　容:会社の種類 教科書・指定図書　教科書(第１章Ⅲ)
第３回	テーマ(何を学ぶか)：総論 (3) 内　容:株式会社の特徴、上場会社、会社法 教科書・指定図書　教科書(第１章Ⅳ～Ⅵ)
第４回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (1) 内　容:機関とその設計 教科書・指定図書　教科書(第２章Ｉ)

第５回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (2) 内　容:株主総会とは、株主総会の招集、株主提案 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅱ1～3)
第６回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (3) 内　容:一株一議決権の原則とその例外、議決権の行使方法 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅱ4・5)
第７回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (4) 内　容:株主総会の議事・決議、株主の権利行使に関する利益供与、株主総会決議の効力を争う訴え 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅱ6～8)
第８回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (5) 内　容:取締役とは、取締役の選任・解任、取締役会の職務 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅲ1～3)
第９回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (6) 内　容:取締役会の招集・決議、代表取締役、善管注意義務・忠実義務 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅲ4～7(1)(2)(3)(4))
第10回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (7) 内　容:競業取引、利益相反取引、取締役の報酬 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅲ7(5)(6)・8)の
第11回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (8) 内　容:監査役 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅳ1～3)
第12回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (9) 内　容:監査役会、会計監査人、会計参与 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅳ4・Ⅴ・Ⅵ)
第13回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (10) 内　容:指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅶ・Ⅷ)
第14回	テーマ(何を学ぶか):株式会社の機関 (11) 内　容:役員等の会社に対する責任、株主代表訴訟 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅸ1～3)
第15回	テーマ(何を学ぶか)：株式会社の機関 (12) 内　容:役員等の会社に対する責任の免除、役員等の第三者に対する責任 教科書・指定図書　教科書(第２章Ⅸ4・5)
試　験	試験期間中に定期試験を行います

（様式２）

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
組織学習論	2 単位	選択

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
丁　圏鎭	**時間:** **場所:**	講義、ワークショップ形式

〔科目の概要〕 ： ワークショップ形式授業

個人が試行錯誤を繰り返しながら成長するのと同じく、組織も様々な状況および環境の変化に適応・対応しながら発展していく。協働体系である組織が社会の構成要素としての役割を果たすことは、社会における組織の存在意義に他ならない。特に、現代社会が求めているのは個々の組織が発展することではなく、利害関係者を含む他の組織と協力し、価値を創造しながら共生できる「持続可能な発展」を実現することである。

本科目は、社会の持続可能な発展と革新を成し遂げるために個人と組織が果たすべき役割（責任）について、理論を学び、その実践方法をワークショップ形式で学習する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

組織論をはじめ、経営戦略論、マーケティング論、会計学などの経営学科科目で学んだ知識を総合的に用いる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標:　第Ⅰ部　組織における個人の役割:知の創造
　　知識創造理論
最終目標:　第Ⅱ部　社会における組織の役割:共通価値の創造
　　ビジネスモデル理論

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・チーム評価と個人評価の割合を調整した。
・個人評価における適切な方法を工夫した。

〔教科書〕

なし。 資料を配布する。

〔指定図書〕

丁　圏鎭『組織設計と個人行動』【増補版】、文眞堂、2020 年。
アレックス・オスターワルダー偏著　関美和訳『バリュー・プロポジション・デザイン』翔泳社、2015 年。

〔参考書〕

野中郁次郎・勝見明『イノベーションの本質』、2004 年、日経 BP 社。
野中郁次郎・勝見明『イノベーションの作法』、2007 年、日本経済新聞出版社。
野中郁次郎・勝見明『イノベーションの知恵』、2010 年、日経 BP 社。
野中郁次郎・遠山亮子・平田透『流れを経営する』、2010 年、東洋経済新報社。

〔前提科目〕

な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・授業参加態度・成果発表60点、期末テスト40点
・チーム評価と個人評価を並行する。
・欠席者、遅刻者、授業態度不良者に減点あり。

〔評価の基準及びスケール〕

本学の成績評価基準に準じる。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・ワークショップ形式授業なので、無断欠席を認めず、授業への積極的な参加を求める。
・授業時間の他に、情報収集や資料調査などの時間が必要とされる。
・授業中発表やテストに代わるレポート評価はなく、長期欠席も認めないので就活する 4 年生が履修登録する際には慎重に検討すること。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 授業の概要説明 内　容: 教科書・指定図書
第2回	***第Ⅰ部　　組織における個人の役割 ： 知の創造*** テーマ(何を学ぶか): 創造的リーダーの役割と能力(1) 内　容: 事例から学ぶ 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 創造的リーダーの役割と能力(2) 内　容: 事例から学ぶ 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):「知の創造」の仕組み 内　容: 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): SECI モデルの学習(1) 内　容: ワークショップ 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): SECI モデルの学習(2) 内　容: ワークショップ 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):SECI モデルの学習(3) 内　容: ワークショップ 教科書・指定図書

第８回	テーマ（何を学ぶか）：成果発表会 内　容：チーム別成果発表 教科書・指定図書
第９回	***第Ⅱ部　社会における組織の役割：共通価値の創造*** テーマ（何を学ぶか）：組織の社会的責任 内　容：CSR、CSV、価値創造モデル 教科書・指定図書
第10回	テーマ（何を学ぶか）：Customer Profile 内　容：顧客分析、ワークショップ 教科書・指定図書
第11回	テーマ（何を学ぶか）：Value Map 内　容：価値提供、ワークショップ 教科書・指定図書
第12回	テーマ（何を学ぶか）：Business Model（1） 内　容：ビジネスモデル、ワークショップ 教科書・指定図書
第13回	テーマ（何を学ぶか）：Business Model（2） 内　容:ビジネスモデル、ワークショップ 教科書・指定図書
第14回	テーマ（何を学ぶか）：成果発表会（1） 内　容：チーム別成果発表 教科書・指定図書
第15回	テーマ（何を学ぶか）：成果発表会（2） 内　容：チーム別成果発表 教科書・指定図書
試 験	期末試験 内 容：筆記テスト 教科書・指定図書

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
監査論	4 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
紫関　正博 Shiseki　Masahiro	**時間：** 授業の開始時に提示 **場所：** 研究室（512）	講義

〔科目の概要〕

企業の外部に会計情報を提供する企業の経営者は，投資家，株主，債権者などの企業の利害関係者に，企業の財務状況や経営状態を報告する。その際，企業は利害関係者に向けて，会計法規や会計基準に基づいて貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成し，公表する。監査は，企業が作成した財務諸表の適切さを保証する役割を担っている。企業の利害関係者は，監査を介して初めて信頼できる企業の財務諸表を入手することができる。こうした財務諸表を監査対象とする監査（通常，「財務諸表監査」という）は，企業が作成した財務諸表上の数値（金額）が正しいものであるのかをチェックし，財務諸表を利用する投資家や株主等を保護するために，証券市場の信頼性を確立する役割を担う社会制度となっている。

監査（または財務諸表監査）制度は，企業が会計制度を通じて公表した財務諸表が適切であるか，あるいは，適法であるかをチェックする社会制度の一構成要素である。しかし，こうした役割を監査が担っているにもかかわらず，なぜ粉飾決算は繰り返されるのかを想起しておく必要がある。その原因の1つは，現代の会計がフェア・バリュー(Fair Value)を導入し，会計に将来という概念を採用することによって，財務諸表上で将来に関わる会計事象（会計の「用語」と「数値」（金額））が含まれていることにあるように思われる。確かに，監査を実施することで，企業が会計法規や会計基準に基づいて適切な財務諸表を作成したかをチェックすることができるが，将来に関する会計事象（会計の「用語」と「数値」（金額））に対してはどのように信用を与えればよいであろうか。現在，こうした問題が監査の領域で生じている。

「監査論」では，主として，日本の監査制度を中心にして，監査の意義，財務諸表監査，法定監査制度（会社法監査，金融商品取引法監査など），監査基準の各テーマを取り上げる。また，公認会計士（監査法人）による監査の実施と報告を中心として，監査とリスク，監査報告書，近年の監査に対する社会的要請に関するテーマを解説する。さらには，四半期レビュー，内部統制監査などの現代の監査のテーマも取り上げて，監査に関する具体的な事例についても取り上げる。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・他の科目との関連付け

「監査論」は，他の会計科目（会計学基礎論，財務会計論，財務分析Ⅰおよび財務分析Ⅱなど）と密接な関係がある。

・学ぶ必要性と学ぶことの意義

いまや会計は，ビジネスの言語として，社会人にとって必須の知識となっている。監査についていえば，財務諸表監査を理解することは，財務諸表を作成する企業にとって，財務諸表の公表が社会に果たす役割を再認識する上で有益である。主として上場企業では，近年，内部統制の実施が制度化されており，実際に企業の現場に監査がますます入ってきている現状が窺える。このように，監査法人のみならず，財務諸表を作成する側の企業人にとっても，監査を十分に理解する必要性が高まっている。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

（中間目標）　会計と監査（制度）の関係に着目しながら，監査理論を学習し，財務諸表監査を中心とした監査制度の意義を習得することにある。

（最終目標）　受講者自らが公認会計士の職務に従事しているような意識を持ち，監査プロセスと監査実務を理解し，現代の監査に関わる諸問題を学習することにある。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

板書や説明の仕方を意識し，マイクについては，音量に気をつけて授業を行うようにします。講義レジュメについては，重要な監査のテーマを中心にして，より簡略化し，その他の関連する事項は補助資料や板書を用いて授業を行っていきます。

〔教科書〕

伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏　著『ベーシック監査論（八訂版）』，同文舘出版，2019 年。

〔指定図書〕

山浦久司　著『監査論テキスト〔第 8 版〕』，中央経済社，2022 年。

〔参考書〕

長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子　著『監査論入門（第 4 版）』，中央経済社，2019 年。
蟹江章・藤岡英治・髙原利栄子　著『わしづかみシリーズ　監査論を学ぶ〔第 3 版〕』，税務経理協会，2020 年。

〔前提科目〕

前提科目はなし。「会計学基礎論」，「財務会計論」（できれば他の会計科目も）を履修していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

・5～6回程度，小課題を提出してもらう。期末試験の他に，授業中に小テストを行う。小テストの実施日は，授業内および掲示で伝達するので，注意すること。

〔評価の基準及びスケール〕

・小課題（10%），小テスト（30%），期末試験（60%）によって，評価する。

（評価）

A: 80%以上	GPA	4.00
B: 70%～80%未満		3.00
C: 60%～70%未満		2.00
D: 50%～60%未満		1.00
F: 50%未満		0.00

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・初回の授業の際に，評価方法の詳細を説明するので，必ず出席すること。
・受講生の学習理解度，授業の状況などにより，授業スケジュールに変更が生じる場合もある。
・「監査論」の講義では，受講者自らが「公認会計士」の職務を担当しているかのような意識を持ち，会計と監査（制度）の関係を考えてほしい。
・考えることと同時に，覚える事柄も多くあるので，予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には教科書，講義レジュメを十分に読み，授業に出席すること。
・他の学生の迷惑になる行為はくれぐれも慎むこと。まず注意をするが，ひどい場合には，厳しく対処する。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）：監査とは何か① 内　容：監査の意義 教科書　第1章，講義レジュメ
第２回	テーマ（何を学ぶか）：監査とは何か② 内　容：監査の生成要因と監査の種類 教科書　第1章，講義レジュメ

第3回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク① 内　容:会計ディスクロージャーと財務諸表監査 教科書　第1章,　講義レジュメ
第4回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク② 内　容:財務諸表監査の役割 教科書　第1章,　講義レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク③ 内　容:監査の経済的機能, 市場と組織における監査の有用性 教科書　第1章,　講義レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか):監査制度① 内　容:監査制度の生成と展開(イギリス) 教科書　第2章,　講義レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか):監査制度② 内　容:監査制度の生成と展開(アメリカ) 教科書　第2章,　講義レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか):監査制度③ 内　容:監査制度の生成と展開(ドイツ) 講義レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか):監査制度④ 内　容:会社法監査制度 教科書　第2章,　講義レジュメ
第10回	テーマ(何を学ぶか):監査制度⑤ 内　容:金融商品取引法監査制度 教科書　第2章,　講義レジュメ
第11回	テーマ(何を学ぶか):監査制度⑥ 内　容:公認会計士法の意義と内容 教科書　第2章,　講義レジュメ
第12回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準① 内　容:監査規範の意義, アメリカの監査基準の生成と展開 教科書　第3章,　講義レジュメ
第13回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準② 内　容:日本の監査基準の生成と展開(1) 教科書　第3章,　講義レジュメ
第14回	テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準③ 内　容:日本の監査基準の生成と展開(2), 近年の監査基準の改訂 教科書　第3章,　講義レジュメ
第15回	テーマ(何を学ぶか):前半の総復習 内　容:前半の講義内容の総括, 小テストの実施 教科書,　講義レジュメ
第16回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス① 内　容:監査プロセス, 経営者の主張 教科書　第4章,　講義レジュメ
第17回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス② 内　容:監査要点, 監査証拠, 監査手続 教科書　第4章,　講義レジュメ

第18回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略① 内　容:監査リスク・アプローチの意義, 監査リスクの構成要素 教科書　第5章,　講義レジュメ
第19回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略② 内　容:監査上の重要性, 監査リスク・アプローチの全体像 教科書　第5章,　講義レジュメ
第20回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略③ 内　容:監査戦略と監査計画 教科書　第5章,　講義レジュメ
第21回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了① 内　容:企業および企業環境の理解, 内部統制 教科書　第6章,　講義レジュメ
第22回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了② 内　容:重要な虚偽表示のリスク, 不正リスク, 監査手続の完了と監査意見の形成 教科書　第6章,　講義レジュメ
第23回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能① 内　容:監査報告書の意義と種類, 監査上の主要な検討事項 教科書　第7章,　講義レジュメ
第24回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能② 内　容:監査意見の移行形態, 追記情報 教科書　第7章,　講義レジュメ
第25回	テーマ(何を学ぶか):開示情報の多様化と保証機能① 内　容:四半期レビュー制度 教科書　第8章,　講義レジュメ
第26回	テーマ(何を学ぶか):開示情報の多様化と保証機能② 内　容:内部統制監査制度 教科書　第8章,　講義レジュメ
第27回	テーマ(何を学ぶか):公監査 内　容:会計検査院による監査, 地方自治体監査制度 講義レジュメ
第28回	テーマ(何を学ぶか): 現代における会計と監査 内　容: 現代会計と監査制度 講義レジュメ
第29回	テーマ(何を学ぶか):会計監査のケース・スタディ 内　容:会計監査に関する事例 講義レジュメ
第30回	テーマ(何を学ぶか):総復習 内　容:講義内容の総括 教科書,　講義レジュメ
試 験	筆記試験の実施

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
税 務 会 計 Ⅰ	2単位	経営学科 選択科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
金 子 輝 雄 teruo KANEKO	**時間:** ドアに掲示 **場所:** 研究室 513	講 義

〔科目の概要〕

「所得税法」を学びます。初めに税の概要を説明し、所得税の特徴を説明し、徐々に本題に入っていきます。適宜、租税の歴史や、租税の基本原則、税務裁判事例を紹介し、単なる計算ではなく、租税法というものを意識して展開していきたいと考えています。

ところで、税の問題は、課税要件の認定といった法的な観点、国・地方自治体の財政といった財政的観点、所得の再分配といった経済政策的な観点など、いくつかの角度から検討することができますが、ここでは納税者が実際に行う手続きである課税標準の計算から納税に至るまでの計算手続、すなわち、税務会計の観点から学んでいきます。

わが国では約50種類に及ぶ税がありますが、企業経営との係わりでいえば申告納税方式がとられている「法人税法」・「所得税法」が重要です。納税ということに関して、かつて、わが国の多くの企業の対応は事後的・消極的な感がありましたが、最近では米国企業のように、経営意思決定に税の要素を取り入れて事前的・積極的な対応（タックス・プランニング）をとる企業も増えてきました。とはいえ、法人税法は複雑難解であり、かなりの専門的・段階的な学修を必要としますので、この講座では、特に、同じ所得課税の税目であり、また法人税法のベースにもなっている「所得税法」の理解・修得に主眼を置いていきたいと思います。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

会計学基礎論で学んだ会計処理の意味が理解できます。基礎的な簿記は所得税法（事業所得計算）を前提としているからです。また、財務会計論の税効果会計は法人税法を前提としています。

秋学期に開校される「税務会計Ⅱ」と併せて連続受講していただきたいと思います。税務会計Ⅱではもっぱら法人税法を取り上げますが、法人税法は企業会計や企業経営とのかかわりが深く、所得税法に比べて非常に複雑難解です。そのため、税務会計Ⅰでは、初めに、税法入門の内容から始め、次に所得税法における課税標準と納付税額の計算を通じて所得課税の仕組みを学びます。最後に、時間の許す範囲で、企業の税務会計で法人税法と並んで重要な消費税法を取り上げる予定です。このようにして、法人税法をなるべく理解しやすくするための準備を行っていきます。

もちろん、「税務会計Ⅰ」でしっかり学んでいただければ、「個人所得税の確定申告」が自分自身で出来るようになりますし、タックス・プランニングについて学び、さらには所得課税のあり方を考える機会となるでしょう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1.（中間目標） 全国経理学校協会主催「税務会計検定試験（所得税法）」1～3級の合格。税理士試験の「所得税法」に向けた基礎的理解。「ファイナンシャル・プランニング技能士」試験のタックス・プランニングへの対応
＜毎年、数名の FP 試験の合格者が出ています。＞

2.（最終目標）学説や判例を交えて法的な観点から租税法というものを考えてもらう。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

数名ですが、「練習問題を解く時間を多くとってほしい。解説を丁寧にやってほしい。」という要望が見られます。個人差があるように思いますが、なるべく配慮いたします。

〔教科書〕

全国経理学校協会編『演習 所得税法 ＜最新版＞』清文社
＊事業所得の計算における引当金や減価償却の項目は「税務会計Ⅱ」で取り上げます。

〔指定図書〕
なし

〔参考書〕
適宜紹介する

〔前提科目〕
会計学基礎論を習得していること。憲法や民法を学んだことがあればなおよい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

重要な用語・計算の確認のため、毎回、出席カードを配布します(適宜、カードに疑問点や要望があれば書いてください)。

レポート課題:税務会計検定試験の過去問等

期末試験:税務会計検定試験の所得税法2・3級程度＜教科書の持ち込み可＞

〔評価の基準及びスケール〕
期末試験の得点を重視しますが、レポート課題の状況も加味します。

A:100～80
B: 79～70
C: 69～60
D: 59～50
F: 49～ 0

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

教科書の章末や巻末の練習問題に取り組みましょう。

〔実務経歴〕
銀行業及び税理士事務所での実務経験を活かし、複雑化する税制と企業活動の係わりを学び、税務会計及び税法学の理解を深める授業です。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンスと税金の制度 内　容: 税金の意義・根拠・目的・分類、納税の義務 教科書・指定図書　プリント
第2回	テーマ(何を学ぶか):租税法の基本原則 内　容: 租税法律主義と課税の公平性 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):所得税の概要 内　容: 所得税とは、納税義務者、所得の帰属等 教科書・指定図書　第1・2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):利子所得・配当所得 内　容:利子所得および配当所得の意義と金額の計算方法 教科書・指定図書　第3・4章

第5回	テーマ(何を学ぶか):不動産所得 内　容:不動産所得の意義と金額の計算方法 教科書・指定図書　第5章
第6回	テーマ(何を学ぶか):事業所得① 内　容:事業所得の意義、金額の計算、収入金額 教科書・指定図書　第6章
第7回	テーマ(何を学ぶか):事業所得② 内　容:必要経費、棚卸資産 教科書・指定図書　第6章
第8回	テーマ(何を学ぶか):事業所得③ 内　容:事業所得およびこれまで見てきた内容の計算演習 教科書・指定図書　第6章
第9回	テーマ(何を学ぶか):給与所得 内　容:概要と計算式 教科書・指定図書　第7章
第10回	テーマ(何を学ぶか):退職所得と山林所得 内　容:分離課税と5分5乗方式 教科書・指定図書　第8・9章
第11回	テーマ(何を学ぶか):譲渡所得・一時所得・雑所得 内　容:譲渡所得の概要と計算式 教科書・指定図書　第10・11・12章
第12回	テーマ(何を学ぶか):損益通算 内　容:損益通算と損失の繰り越し控除 教科書・指定図書　第13章
第13回	テーマ(何を学ぶか):所得控除 内　容:各種所得控除制度の内容 教科書・指定図書　第14章
第14回	テーマ(何を学ぶか):納付税額の計算 内　容:課税所得金額と納付税額の計算 教科書・指定図書　第15・16章
第15回	テーマ(何を学ぶか):租税の確定手続と全体のまとめ 内　容:　申告納税制度と不服申立制度についてと総合問題演習 教科書・指定図書　プリントおよび教科書の総合問題
定期試験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
商 業 実 習	4 単位	教 職 課 程

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
砂 場　孝一郎 Sunaba　koitiro	時間 ： 授業実施日の　昼食時間は対応可能 場所 ： 5階の非常勤講師控え室	講義　演習

〔科目の概要〕

この科目は、商業科教師を育成する教職課程の選択科目である。そして、受講する学生には、教科「商業」の高校教師を目指すことを前提として学んで欲しい。授業内容は、受講生諸君が教師として、高校生を商業に関する「将来のスペシャスト」に育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけるための科目である。

受講する学生は、社会に生き、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観などを醸成し、豊かな人間性の涵養などにも配慮した教育を行うため、新たに求められる教育内容・方法を理解しなければならない。

文部科学省は、2018 年に、2022 年度から年次進行で実施する新高等学校学習指導要領の改訂版を発表した。本年度はその初年度である。文部科学省は改訂の基本的なねらいとして、①生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する　②これまでの教育内容を維持し、その質を更に高め、確かな学力を育成する　③道徳教育の充実等により、豊かな心や健やかな体を育成する　の３点を示した。商業教育もこのことを基本にし、育成する資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を推進しなければならない。この新しい商業教育の内容・方向性を中心に受講する学生に伝えていきたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

高等学校商業科教員免許取得のためには、本科目の履修が有効となる。
商業高校生の進路は、かつての就職中心から、近年では進学希望者も増加し、年々多様化してきている。

このような商業教育を学ぶ高校生の変容を考慮した上で、商業教育の意義や教科・学科の特色、指導上の留意点などについて、教育現場での現実の課題や問題点を意識しながら、実践的な理解を深めることにより、商業科教師としての基本的な資質を身につけるために学ぶ科目である。

また、教育改革や働き方改革などにより、学校教育は日々変遷してきていることから、教育法規をもとに商業教育の主要な動向等について理解するために、この科目を学ぶ必要性がある。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

商業科教師には、次の３つのことが求められ、この科目の目標とする。

① 商業科教師には、商業を学ぶ高校生に、商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけさせ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行うための指導力が求められる。

② 次に商業科教師には、高校生を望ましい人間関係・社会性・倫理観などの豊かな人間性、主体性、自己責任の観念、独創性などを育成する、人としての資質が求められる。
以上２つの資質を身につけることが、この科目の中間目標である。

③ そのために、商業科教師には、企業経営に対する正しい考え方や、ビジネスの諸活動における豊かなコミュニケーション能力を資質として有することが求められる。
この資質を身につけることが、この科目の最終目標となる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生の「授業評価」は、担当教員の総括の基本であり、真摯に向き合いたいと思っている。
学生がこの科目で学んだことが、「中等教科教育法　商業Ⅰ・商業Ⅱ」での模擬授業等に生かされることが、この科目の目標でもある。　また、学生の「授業評価」は、授業担当者が成長するための基礎・基本となる。これまでの評価内容を授業改善に生かしていきたい。

〔教科書〕

購入不要である。　必要に応じて、新学習指導要領等の資料を授業担当者が配賦する。

〔指定図書〕

「21世紀の商業教育を創造する」 日本商業教育学会 編　　実教出版

〔参考書〕

な し。

〔前提科目〕

な し。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

学修の課題は、高校教師としての資質を身に付けることである。
評価の方法は、①課題のレポート提出(2回予定)、②筆記小テスト(授業内で2度予定)、③プレゼンテーションの実施、④授業への参加・貢献　を通して、学習意欲の有無を判断し、絶対評価(100点法)で行う。
そして、それを本学の定める方法に従い、総合的な評定(A・B・C・D・F)を行う。

〔評価の基準及びスケール〕

評価基準は、本学が定めている方法に従って行う。基準とスケールは次の通りである。
A(80点以上)　B(70点以上)　C(60点以上)　D(50点以上)　F(50点未満)
評価の観点は、①知識・技能　②思考・判断・表現の各能力　③学修に取り組む姿勢である。
数値化の難しい観点もあるが、教職課程の科目であることから、敢えて観点としたい。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

文部科学省は、2018年に、2022年度から年次進行で実施される新学習指導要領を公表した。そのために、担当教員として、学生に講義する教材を十分に吟味して、新しい商業教育の方向性を示し、指導技術や指導方法などを身に付けるための授業を展開したい。学生には、意欲を持ち、真剣に授業に望んで欲しい。特に、板書した内容をノートに記述し、学生自らも板書技術を磨いて欲しい。
なお、学生が授業を欠席する際の授業担当者への連絡は、原則として求めない。

〔実務経歴〕

該 当 な し

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか) ： オリエンテーション 内　容 ： 講義の目的と内容、進め方、評価の方法について 教員作成のレジュメ、資料による
第2回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法 (関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買条件 (商品の品質 ・ 数量 ・ 価格) 教員作成のレジュメ、資料による
第3回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買条件 (受け渡し時期 ・ 受け渡し場所 ・ 代金の受払方法) 教員作成のレジュメ、資料による
第4回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買契約の締結(見積もり・注文)、はんこ(印鑑)の実務 教員作成のレジュメ、資料による

第5回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　容 ： 売買契約の履行(商品の受け渡し・代金決済・電子記録債権・債務) 教員作成のレジュメ、資料による
第6回	テーマ(何を学ぶか) ： 売買取引の方法(関連法規と商慣習) 内　　容 ： 代金決済(通貨・小切手・約束手形・その他)、約束手形の廃止 教員作成のレジュメ、資料による
第7回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 度量衡 ・ 外国貨幣 ・ 割合、外国為替の基本 教員作成のレジュメ、資料による
第8回	テーマ(何を学ぶか)　： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 割り増し・割引・商品の数量と代金の計算・消費税の仕組み 教員作成のレジュメ、資料による
第9回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 仕入原価の計算・販売価格の計算・売価の計算・売買損益の計算 教員作成のレジュメ、資料による
第10回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネス計算の基礎 内　容 ： 利息の計算・日数計算 教員作成のレジュメ、資料による
第11回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： ビジネスに対する心構え 教員作成のレジュメ、資料による
第12回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： 学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)
第13回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ：　学生によるプレゼンテーション(経営経済の時事的なことを主なテーマとする)
第14回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 ： 基礎的なビジネスマナー(挨拶・身だしなみ・話の聞き方・話し方・電話応対) 教員作成のレジュメ、資料による
第15回	テーマ(何を学ぶか) ： ビジネスとコミュニケーション 内　容 :人間 関係の重要性　※筆記小テスト(1度目) 教員作成のレジュメ、資料による
第16回	テーマ(何を学ぶか) ：　企業活動の基礎 内　容 ： 企業の形態と経営組織(1) 教員作成のレジュメ、資料による
第17回	テーマ(何を学ぶか) ： 企業活動の基礎 内　容 ： 企業の形態と経営組織 (2) 教員作成のレジュメ、資料による

第18回	テーマ(何を学ぶか) :企業活動の基礎 内　容 : 学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする) 教員作成のレジュメ、資料による
第19回	テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内　容 :学生によるプレゼンテーション(企業ガバナンスを主なテーマとする) 教員作成のレジュメ、資料による
第20回	テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内　容 : 企業活動と税 教員作成のレジュメ、資料による
第21回	テーマ(何を学ぶか) : 企業活動の基礎 内　容 : 雇　用(働き方改革・労働関連法令) 教員作成のレジュメ、資料による
第22回	テーマ(何を学ぶか) :　経済社会と法 内　容 : 法の意義と役割 教員作成のレジュメ、資料による
第23回	テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権 内　容 : 権利と義務、物権と債権 教員作成のレジュメ、資料による
第24回	テーマ(何を学ぶか) : 権利・義務と財産権 内　容 : 知的財産権 教員作成のレジュメ、資料による
第25回	テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法 内　容 : 契約と意思表示、売買契約と賃借契約 教員作成のレジュメ、資料による
第26回	テーマ(何を学ぶか) : 取引に関する法 内　容 : 債権の管理と回収、金融取引 教員作成のレジュメ、資料による
第27回	テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法 内　容 : 法令遵守、紛争の予防と解決 教員作成のレジュメ、資料による
第28回	テーマ(何を学ぶか) : 企業の責任と法 内　容 : 消費者保護 教員作成のレジュメ、資料による
第29回	テーマ(何を学ぶか) : 商業教育の現状と課題 内　容 : 高等学校の生徒数減少と学校の統廃合、商業に関する学科の卒業生の進路 新学習指導要領の内容と商業教育の方向性について 教員作成のレジュメ、資料による
第30回	テーマ(何を学ぶか) : 商業科教員になるには 内　容 : 商業科教員に必要な資質・能力と教員の働き方 ※筆記小テスト(2度目) 教員作成のレジュメ、資料による
試 験	授業の中で、筆記小テストを2度 実施する (1度目は第15回 ・ 2度目は第30回)。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
環境経済学	2単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
青山　直人 Aoyama, Naoto	**時間:** 詳細は授業中にアナウンスします。 **場所:** 青山研究室	講義

〔科目の概要〕

私たちが直面している環境問題は、大気や水、土壌などの汚染問題から廃棄物問題、気候変動問題、生物多様性の減少、景観の保全などの文化的ストックの問題まで多様な領域にわたり、空間的スケールにおいては騒音や悪臭などの地域的規模の問題から、酸性雨問題などの国際的規模、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球的規模の問題まで広域化し、深刻化しています。この多様で重層な環境問題を解決するためには、(1)なぜ環境問題が発生するのか、(2)環境問題を解決するために必要なことは何か、(3)環境保全をどのようにするのか、ということを考えなければなりません。本科目では、環境問題発生のメカニズム、環境政策の基礎理論、環境の価値評価といったテーマを取り上げ、環境経済学の基本的な考え方を学びます。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

（「授業科目群」・他の科目との関連付け）

環境経済学を勉強するためには、市場機構を学習するミクロ経済学、外部性や公共財を学習する公共経済学の知識とその考え方が必要となります。

（なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが何に結びつくか）

私たちが身近に直面している環境問題やテレビ、新聞などのニュースで取り上げられる環境問題について、問題発生の原因や実施される政策を経済学的に考える力を養ってほしいと思います。開発に関わる公共事業や環境保全政策にとって大切なことの一つは、地域住民の意見や選好が反映されているかどうかということです。環境の価値を考え、地域に住む人々の意見が公共投資に反映されているかどうかを考える力を養ってほしいと思います。環境問題を解決し、環境保全型社会を実現するために出来ることは何か、考えてほしいと思います。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

（中間目標）

「環境問題発生のメカニズム」を学習し、環境問題の原因を考える力を養ってほしいと思います。

（最終目標）

「環境問題発生のメカニズム」「環境政策の基礎理論」「環境の価値評価」を学習し、環境問題を解決するために必要なことは何か、環境保全型社会を実現するためにできることは何か、考えてほしいと思います。また、経済学理論の環境問題への応用方法を学習することで、環境問題以外の社会問題を経済学的に考える力を身につけてほしいと思います。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・講義室の室温に注意します。
・板書内容を説明するときは、皆さんの様子を確認してから説明を開始するようにします。
・配布資料のメモ・スペースを広げるようにします。

〔教科書〕

栗山浩一、馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ　第４版』有斐閣、2020 年。
日引聡、有村俊秀著『入門　環境経済学　環境問題解決へのアプローチ』中央公論新社、2002 年。

〔指定図書〕

植田和弘著『現代経済学入門　環境経済学』岩波書店、1996 年。
栗山浩一、柘植隆宏、庄子康著『初心者のための環境評価入門』勁草書房、2013 年。
細田衛士、横山彰著『環境経済学』有斐閣アルマ、2007 年。
諸富徹、浅野耕太、森晶寿著『環境経済学講義-持続可能な発展を目指して』有斐閣、2008 年。

〔参考書〕
R.K.ターナー/D.ピアス/I.ベイトマン著　大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』東洋経済新報社、2001 年。
板谷淳一、佐野博之著『コア・テキスト　公共経済学』新世社、2013 年。

〔前提科目〕
「経済学基礎論」「ミクロ経済学」「公共経済学」を履修済みであることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

期末試験と小テスト（もしくは課題）の成績を用いて総合的に評価する予定です。

〔評価の基準及びスケール〕

A　80％以上、 B　70％以上 80％未満、 C　60％以上 70％未満、 D　50％以上 60％未満、 F　50％未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
　これまでにミクロ経済学、公共経済学を履修した人は関連する単元を復習するようにしてください。まだ学習した経験がない人は、テキストを一度読むことをすすめます。授業やテキストの内容でわからない箇所は質問してください。授業スケジュールは次のとおりになっています。ただし、小テストの結果（授業の理解度等）によっては変更することもあります。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）：　イントロダクション 内　容：私たちが直面している環境問題を取り上げ、環境経済学の役割について取り上げます。 配布資料（栗山・馬奈木（第1章、第 6 章 Unit22）など）
第2回	テーマ（何を学ぶか）：　イントロダクション 内　容：第 1 回講義の続き。 配布資料（栗山・馬奈木（第1章、第 6 章 Unit22））など）
第3回	テーマ（何を学ぶか）：環境問題発生のメカニズム（1）外部性と市場の失敗 内　容：なぜ環境問題が発生するのであろうか。市場機構の仕組みを学習し、外部性の問題を取り上げます。 配布資料（栗山・馬奈木（第 2 章 Unit4）、日引・有村（第 1 章）など）
第4回	テーマ（何を学ぶか）：環境問題発生のメカニズム（1）外部性と市場の失敗 内　容：第 3 回講義の続き。 配布資料（栗山・馬奈木（第 2 章 Unit4）、日引・有村（第 1 章）など）
第5回	テーマ（何を学ぶか）：環境問題発生のメカニズム（2）共有資源の利用と管理 内　容：多くの人々が利用可能な資源をコモンズと呼びます。森林の劣化などのコモンズの悲劇について学習します。 配布資料（栗山・馬奈木（第 2 章 Unit5）、植田（第 9 章）など）
第6回	テーマ（何を学ぶか）：環境問題発生のメカニズム（2）共有資源の利用と管理 内　容：第 5 回講義の続き。 配布資料（栗山・馬奈木（第 2 章 Unit5）、植田（第 9 章）など）

第7回	テーマ(何を学ぶか):環境問題発生のメカニズム(3)公共財とフリーライダー 内　容: 環境は公共財としての性質を備えています。公共財供給におけるフリーライド問題を取り上げます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第2章Unit6)など)
第8回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(1)直接規制と市場メカニズム 内　容: 伝統的な環境政策である直接規制を学習します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit7)、日引・有村(第2章)など)
第9回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2)環境税 内　容: 環境問題への経済学的アプローチとして、環境税を学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit8)、日引・有村(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章))
第10回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(2)環境税 内　容: 第9回講義の続き。環境税について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit8)、日引・有村(第2章)、細田・横山(第7章)、諸富他(第3章))
第11回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(3)直接交渉による解決 内　容: 直接交渉による環境問題の解決について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit9)、日引・有村(第2、3章)、諸富他(第3章)など)
第12回	テーマ(何を学ぶか):環境政策の基礎理論(4)排出権取引 内　容: 排出権取引について学びます。 配布資料 (栗山・馬奈木(第3章Unit10)、日引・有村(第3章)、諸富他(第3章)など)
第13回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(1)環境の価値 内　容: 環境の価値とは何か。環境の利用価値と非利用価値を考え、支払意思額と受入補償額について学習します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit15)、栗山他(第1、2章)など)
第14回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(1)環境の価値 内　容: 第13回講義の続き。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit15)、栗山他(第1、2章)など)
第15回	テーマ(何を学ぶか):環境の価値評価(2)環境評価手法 内　容: 代表的な環境評価手法の基本的な考え方を紹介します。 配布資料 (栗山・馬奈木(第5章Unit16、Unit17)、栗山他(第3～10章)など)
試　験	期末試験を行います。

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
地域経営論		2 単位	専門科目
〔担当者〕 足達健夫	〔オフィス・アワー〕 **時間:** 後日掲示する **場所:** 1302 号室		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

人口減少時代を迎えるにあたり、地域をどのような姿にしていく（経営していく）べきかを考える。「地域を経営する」といっても、地域を構成する要素は多岐にわたり、「この方法をとれば、かならずこういう結果が出る」という方程式があるわけではない。しかし、この分野で学んでおくべき概念や考え方、制度、用語、事例はある。本科目ではなるべく網羅的に、基本的かつ重要なものをとりあげる。

講義は、現在の地方都市が直面する状況からはじまり、都市空間、交通、環境、観光などのテーマについて解説する。いずれのテーマにも共通するのは、それらが住民にとってなにを意味するかである。この「住民の視点」を、全体を貫くもうひとつのテーマとして講義を進める。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目の対象は地域社会に住み、地域社会をつくる担い手を想定している。ここで学ぶことは、将来、行政や地域企業で、地域に関わる仕事に取り組む際に最低限必要な考え方・知識である。「住み」、「つくる」ことは、すべての地域住民がやっていることだが、本科目の履修者は、学術的な知識に裏付けられた上で、明確な意図を持ってそれを行うことになる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

「地域経営」が、どのような場面で、どのような考え方によってなされているかを、具体的に説明できること。
それに関連するさまざまな事例に言及できること。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

その日の講義の要点をより具体的に整理できるようにした。

〔教科書〕

特に定めない。

〔指定図書〕

特に定めない。

〔参考書〕

特に定めない。講義中に随時、文献を紹介することがある。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

(1)定期試験の点数で評価する。出席に関する下記の条件をクリアしていても、欠席が多い場合は定期試験の点数よりも低い評価を与えることがある。

(2)理由にかかわらず、6回欠席した時点でF評価とし、定期試験の受験を認めない。

〔評価の基準及びスケール〕

A:80%以上
B:70～79%
C:60～69%
D:50～59%
F:50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

講義中、学生一人ひとりに随時、試問／質問をする。自由、柔軟な発想で考えを述べたり、わからないときは「なにがわからないか」を考え述べるなど、教員とのコミュニケーションにより、ともに講義をつくる姿勢を望む。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 人口減少と地域社会(1) 内　容: 日本・世界における人口の傾向、合計特殊出生率と影響要因
第2回	テーマ(何を学ぶか): 人口減少と地域社会(2) 内　容: 地域における人口動態、地方版「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」
第3回	テーマ(何を学ぶか): 公共施設 内　容: 公共施設とは、施設数の推移、自治体の財政、総合的な管理計画、住民の視点と活動、インフラストラクチャーとは、インフラの外部経済性、評価手法の重要性と事例
第4回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(1) 内　容: 都市化、都市の誕生と成長
第5回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(2) 内　容: 地域モデル、都市の構造
第6回	テーマ(何を学ぶか): 市街地の形成(3) 内　容: 中心市街地の問題と活性化、コンパクトシティと市街地の誘導
第7回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(1) 内　容: 交通と都市構造、交通と中心市街地

第8回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(2) 内　容: 都市交通の問題、自動車交通と公共交通、歩行者環境
第9回	テーマ(何を学ぶか): 地域と交通(3) 内　容: 地域に与える影響、交通まちづくり
第10回	テーマ(何を学ぶか): 地域環境(1) 内　容: 環境破壊とはなにか、自然環境の価値
第11回	テーマ(何を学ぶか): 地域環境(2) 内　容: 積極的／消極的な層、環境保護と地域雇用、「見返りのある保護」、事例
第12回	テーマ(何を学ぶか): 観光(1) 内　容: 観光動態、エコ・ツーリズム
第13回	テーマ(何を学ぶか): 観光(2) 内　容: 地域資源としての世界遺産、観光形態の変化
第14回	テーマ(何を学ぶか): 地域プロモーション(1) 内　容: フィルム・コミッション、地域イメージのコーディング
第15回	テーマ(何を学ぶか): 地域プロモーション(2) 内　容: 地域プロモーション、メディアの活用、事例
試 験	期末試験。試験範囲はすべての講義内容が対象。

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
金融経済学Ⅱ		2 単位	専門科目 基幹科目
〔担当者〕 國方　明 Kunikata, Akira	〔オフィス・アワー〕 **時間**: 第 1 回の授業で連絡します。 **場所**: 525 号室		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本科目では、金融という経済活動を、主にマクロ経済学の知識を使って理解します。皆さんのほとんどはマクロ経済学を受講しているでしょうし、皆さんの中には経済変動論を受講した人もいるでしょう。これら科目で身につけたマクロ経済学の知識・理論のうち、金融にかかわる部分をより深く学びます。

第 5 回～第 13 回が、マクロ経済学を金融に応用した授業です。マクロ経済学や経済変動論と比べて、本科目では、マクロ経済学の歴史を振り返りながら、金融政策の有効性について議論します。また、本科目では金融政策の目標や手段といったやや技術的な面も学びます。

また、残り(第 1 回～第 4 回、第 14 回と第 15 回)の授業では、第 4 回～第 13 回の授業を理解するために必要な範囲内で、ミクロ経済学を金融に応用します。特に金融システムの重要な構成要素である民間銀行について学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1. 他の科目との関連付け

まず、〔科目の概要〕で説明したように、本科目では、主にマクロ経済学や経済変動論で学んだ知識を用いて金融を理解します。したがって、マクロ経済学に対する十分な理解が必要です。特に本科目と関連している部分を取り出すと、マクロ経済学のうち金融システムや金融政策にかかわる部分です。

次に、本科目で教えた知識を、金融機関論(3 年次秋学期、展開科目)で応用する予定です。。

2. 学んだことが何に結びつくか？

皆さんは既にマクロ経済学や経済変動論で、金融政策の重要さを学んだと思います。この重要さを、歴史や技術面も含めて理解できると考えます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1. 最終目標

・　金融政策が一国経済や世界経済に与える影響を適切に理解するための知識・理論を身につける。

2. 中間目標

・　金融政策の目標と手段を学ぶ。
・　民間銀行が、金融政策とどのように関連しているかを学ぶ。
・　現在の日本で、金融特に金融政策に関してどのようなトピックスがあるかを学ぶ。

以上の目標を達成するためには、授業で学んだことを、新聞を読んだりTVのニュースを見たりした時に応用する必要があるでしょう。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

新設科目なので、該当無し。

〔教科書〕

本科目では教科書を使用しません。その代わり、ハンドアウト(俗に言うプリント)を配布して、それに基づいて講義します。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。

〔指定図書〕

該当無し。

〔参考書〕

参考書 1:　内田浩史、『金融』、有斐閣、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)
参考書 2:　小林照義、『金融政策　第 2 版』、中央経済社、2020 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)
参考書 3:　佐藤綾野・中田勇人、『国際金融論 15 講』、新世社、2021 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)

〔前提科目〕

マクロ経済学、経済変動論

上記 2 科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、該当科目のシラバスに紹介されて

いる書籍の自習を強く勧めます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

2020 年 4 月以後に入学した学生については、次の(ア)と(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。

(ア) 授業内小テスト 1 回。択一式です。

(イ) 試験期間中の試験 1 回。択一式と記述式の併用です。

一方、2019 年4 月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕**を参照してください。

〔評価の基準及びスケール〕

2020 年4 月以後に入学した学生については、〔学修の課題、評価の方法〕に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。

A:80%以上。B:70%以上、80%未満。C:60%以上、70%未満。D:50%以上、60%未満。F:50%未満。

一方、2019 年 4 月以前に入学した学生については、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕1 点目**を参照してください。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- 2019 年 4 月以前に入学した学生は、本科目を履修するとともに、今年度秋学期開講の金融経済学 I を履修してください。本科目と金融経済学 I の学修成果を総合して、4 単位分の評価を行います。
- 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明します。できる限り出席してください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談)を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、担当教員(國方)が受け付けます。
- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。

〔実務経歴〕

新設科目のため、該当なし。

授業スケジュール

(新型コロナウイルス感染拡大状況や履修者の理解度などによって、スケジュールに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンスと民間銀行(1) 内 容: まず、本科目の全体像を学びます。次に、民間銀行の収益源を理解します。民間銀行特に地域銀行は、利鞘を主な収益源にします。利鞘は、長期の貸出利子率から、短期の預金利子率を引いた差です。 参考書 1 第 8 章と第 13 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 利子率の期間構造 内 容: 長期利子率と短期利子率との関係を描く、3 つの仮説があります。これら仮説を紹介します。 参考書 1 第 2 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 民間銀行(2) 内 容: 民間銀行の役割を学びます。また、取り付け騒ぎという現象を学びます。 参考書 1 第 8 章と第 13 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 中央銀行(日本では日本銀行) 内 容: あえてミクロ経済学的な思考法を使って、中央銀行という個別経済主体について学びます。 参考書 1 第 12 章と第 14 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 貨幣供給と、貨幣に対する需要 内 容: 第 5 回～第？回では、金融政策を中心に、一国で完結するマクロ経済学の理論を学びます。 第 5 回では、貨幣供給と貨幣需要それぞれの決まり方を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2

第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策の有効性についての論争 内　容: マクロ経済学の歴史を振り返り、金融政策の有効性についての論争を紹介します。また、裁量とルール、タイムラグ、時間不整合性やクレディビリティなど、論争の中で現れた様々な概念を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 金融政策の最終目標と手段 内　容: 金融政策の最終目標を学びます。また、中央銀行が最終目標を達成するために実施する手段を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): ルール割り当て理論 内　容: 第 6 回で、金融政策にかかわるルールを学びました。今回、まず代表的なルールを 2 種類学びます。次に、2 種類のルールの割り当てについての理論を学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 非伝統的金融政策 内　容: 1990 年代末以降、わが国では非伝統的金融政策が数度実施されています。非伝統的金融政策の特徴や、期待される効果を学びます。また、非伝統的金融政策の副作用も学びます。 参考書 1 第 12 章、参考書 2
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 国際収支会計 内　容: 対外取引を集計した統計を紹介します。<u>また、第 10 回授業内で、小テストを実施する予定です。</u> 参考書 3 第 2 講
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 為替レートの決定理論 内　容: 為替レートの決定理論を、2 つ学びます。 参考書 3 第 7 講と第 8 講
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 開放マクロ経済の理論モデル(1) 内　容: IS/LM モデルを拡張して、開放マクロ経済を描くモデル(マンデル=フレミングモデル)を学びます。 参考書 3 第 12 講
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 開放マクロ経済の理論モデル(2) 内　容: マンデル=フレミングモデルを用いて、開放経済における財政政策と金融政策それぞれの効果を学びます。 参考書 3 第 13 講
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(1) 内　容: 第 3 回で、取り付け騒ぎを学びました。第 14 回と第 15 回で、この騒ぎを予防したり、騒ぎが実現したときに騒ぎを軽減したりするような政策対応を学びます。 第 14 回では、政策対応のうちミクロプルーデンス政策を学びます。 参考書 1 第 14 章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 取り付け騒ぎへの政策対応(2) 内　容: 第 15 回では、政策対応のうちマクロプルーデンス政策を学びます。世界金融危機後、マクロプルーデンス政策に注目が集まっています。また、マクロプルーデンス政策と金融政策の違いが曖昧になっていると言われています。 参考書 1 第 14 章
試　験	期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域経済学	4	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
樺　克裕 KAMBA, Katsuhiro	授業開始後にお知らせします。	**講義**

〔科目の概要〕

21世紀に入り、経済はグローバル化しました。企業は国境を超えて活動し、様々な国で作れられた商品が日本国内で流通する時代になりました。そのような中で、日本企業はアメリカやヨーロッパ諸国のような先進国の企業だけでなく、中国や韓国、インド等の新興国の企業とも激しい競争を繰り広げており、日本企業を取り巻く環境は一段と厳しくなっています。

一方で、日本国内では、人口減少社会を迎え、その中でも人口と企業が集中する東京等の都市部と、人口の流出に歯止めがかからず地域経済が衰退しつつある青森県のような地方部の経済的な格差が深刻な社会問題となっています。様々な規制緩和により、大企業が提供する低価格な商品、サービスを全国どこでも享受できるようになった一方で、地方の老舗企業の倒産も目立っています。

また、日本の各地域の経済を詳細にみると、モータリゼーションや立地規制の緩和等により伝統的な商店街の多くは疲弊し、空き店舗が目立っています。グローバル経済の影響を受け、中小製造業も円高の進展や下請け関係の解消等厳しい状況にあり、地方に誘致した大企業の工場も数年で移転、閉鎖することも珍しくない状況にあります。

このように、地域経済は、日本国内の経済だけでなく、世界経済と密接に繋がっています。この科目では、世界経済、日本経済の最新の現状分析と人口移動、地価、都市規模、立地等に関する理論分析を組み合わせて、地域経済に対する理解を深めることを目的とします。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

みなさんが既に学んできたミクロ経済学、マクロ経済学等では、物事を単純化して考えてきたと思います。しかし、実際に各地域の経済を考える時には、地域の特性（気候、人口、地理的条件、インフラの整備状況…）を無視して考えることはできません。地域経済をより深く理解するため、地域経済学の授業では、地域の実情を考慮しながら、地域経済を分析する視点を提示していきます。

学生の皆さんは、いずれ社会人として地域経済の担い手となります。その際、この授業内容が少しでも役立つようになればと願っています。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標：世界経済、日本経済、地域経済の現状について理解すること

最終目標：経済学的視点を持って地域経済の様々な問題を分析できるようになること。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

綺麗な板書を心掛けます。

〔教科書〕

なし。授業は配布するレジュメに沿って進行します。

〔指定図書〕

佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣ステゥディア　有斐閣　2014 年

〔参考書〕

金本良嗣・藤原 徹『都市経済学（第2版）＜プログレッシブ経済学シリーズ＞』東洋経済新報社 2016 年
高橋孝明『都市経済学』有斐閣ブックス　有斐閣　2012 年
土地総合研究所編 山崎福寿・中川雅之著『経済学で考える 人口減少時代の住宅土地問題』東洋経済新報社　2020年

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

中間試験と期末試験で評価します。詳細は第１回目の授業で発表します。

〔評価の基準及びスケール〕

評 価	得点比率
A	80% ～ 100%
B	70% ～ 80%未満
C	60% ～ 70%未満
D	50% ～ 60%未満
F	50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・地域の経済活動に関心をもつために、新聞やニュースをチェックすることを推奨します。

〔実務経歴〕

旧通産省での実務経験を活かし、世界経済・日本経済の最新の現状分析とより理解を深めるための理論分析を組み合わせて、地域経済に対する理解を深める授業です。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):地域経済学とは？ 内　容:世界経済と日本経済と地域経済の関連性
第2回	テーマ(何を学ぶか):地域経済の現状 内　容:本格的に地域経済学を学ぶ前に、地域経済の現状を俯瞰する。
第3回	テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(1) 内　容:経済のグローバル化が日本経済に与える影響
第4回	テーマ(何を学ぶか):経済のグローバル化と地域経済(2) 内　容:グローバル化が地域経済に与える影響
第5回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(1) 内　容:経済政策の種類と地域経済への影響
第6回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済(2) 内　容:過去の経済政策(経済対策)と地域経済
第7回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(1) 内　容:セイの法則と有効需要の原理
第8回	テーマ(何を学ぶか):経済政策と地域経済への波及効果(2) 内　容:需要モデルと供給モデル
第9回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(1) 内　容:産業連関表の導出

第10回	テーマ(何を学ぶか):産業連関分析(2) 内　容:産業連関表と経済波及効果
第11回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(1) 内　容:日本の企業経営の現状
第12回	テーマ(何を学ぶか):日本の企業経営と地域経済(2) 内　容:地域の中小企業の現状
第13回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(1) 内　容:労働市場の概説
第14回	テーマ(何を学ぶか):日本の労働市場と地域経済(2) 内　容:労働市場の地域間格差
第15回	テーマ(何を学ぶか):日本の財政と地域経済 内　容:財政制度の概要
第16回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(1) 内　容:地域間人口移動の現状
第17回	テーマ(何を学ぶか):人口移動(2) 内　容:地域間人口移動の理論
第18回	テーマ(何を学ぶか):集積の経済 内　容:集積の経済モデル
第19回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(1) 内　容:農地の土地利用分析
第20回	テーマ(何を学ぶか):土地利用分析(2) 内　容:都市の土地利用分析
第21回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(1) 内　容:日本の住宅市場
第22回	テーマ(何を学ぶか):住宅市場(2) 内　容:住宅価格・家賃・地価・地代のモデル分析
第23回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(1) 内　容:システムとしての都市

第24回	テーマ(何を学ぶか):都市システムモデルと最適都市規模(2) 内　容:都市規模決定の理論モデル
第25回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(1) 内　容:工業立地の分析
第26回	テーマ(何を学ぶか):企業立地(2) 内　容:商業立地の分析
第27回	テーマ(何を学ぶか):コロナ禍の地域経済への影響 内　容:人口移動、リモートワーク、オフィス移転等の地域経済への影響
第28回	テーマ(何を学ぶか):地方財政の理論 内　容:公共財の供給、課税ゲーム
第29回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(1) 内　容:経路選択
第30回	テーマ(何を学ぶか):交通サービス(2) 内　容:交通サービスと混雑の影響
試　験	定期試験を実施する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
実証経済分析	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
高　英模	**時間:随時** **場所:メール**	講義および実習

〔科目の概要〕

この講義ではある仮説に基づいて構築した計量モデルを推定し、推定結果に対する解釈を与えることを主目的としする講義と実習を行う。実際のデータを利用した実習を行うことで、これまでに学んだ「経済統計」、「統計学」、そして「計量経済学」の内容を思い起すとともに、それぞれの理解をさらに深めることができる。計量経済学はデータサイエンスの一翼を担う学問である。

講義では教科書と配布資料を利用する。

データ分析には主に gretl を利用する。Excel は補助的に利用する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

2 年次科目の「統計学」や「計量経済学」は理論の学習を中心に行われていたが、実証分析ではそれらの基礎知識を礎にして様々なモデルを使って仮説検定を行う。この仮説検定による科学的判断は世の中の様々なビジネスや研究の中で活用されている。

計量経済学は経済理論の検証の枠だけにとどまらず、社会学、医学、心理学など、実に様々な学術分野で活用される非常に強力な科学的データ分析手段である。本講義ではあくまで基本となる経済学分野での利用に関し、講義を進めるが、計量経済学を使った実践的なデータ分析の能力は、データを使って議論を行うあらゆるビジネスやリサーチ分野で、役立つものである。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

データから実証分析により何らかの科学的結論を導き出す知識と技術を習得すること。さらに、その結果を他者に報告する力を身につけること。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕

田中隆一『計量経済学の第一歩』 日本評論社 2015 および教員配布資料

〔指定図書〕

加藤久和「gretl で計量経済学」日本評論社、2012 年

加藤久和「やさしい計量経済学:プログラミングなしで身につける実証分析」オーム社,2019 年

唐渡広志「44 の例題で学ぶ計量経済学」オーム社,2013 年

山本拓 「計量経済学」新世社、2013 年

白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの計量経済学(第 2 版)」日本評論社,2007 年

滝川好夫・前田洋樹「経済学のための Excel 入門」日本評論社, 2006

豊田利久・大谷一博・小川一夫・長谷川光・谷崎久志『基本統計学』第 3 版、東洋経済新報社、2010

〔参考書〕

Jeffrey M. Wooldridge, Introductory Econometrics: A Modern Approach, South-Western Pub, 7th ed, 2019

〔前提科目〕

2 年次科目「統計学」と「計量経済学」の内容を理解していると講義において大いに役立つ

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
提出物、期末試験で評価する。なお、出席・授業参加における発言や質問は加点要素となりうる。

〔評価の基準及びスケール〕
提出物（4 割）、期末試験（6 割）の合計を 100 点満点基準に換算する。点数とグレードの対応は以下の通り。
80 点以上 A
80 点未満 70 点以上 B
70 点未満 60 点以上 C
60 点未満 50 点以上 D
50 点未満 F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
データを分析するにあたり常に学生と同じ視点にたって、丁寧な指導をこころがける。一方で、学生に対してはデータ分析を行って求められた数字の裏に存在する現実や、将来生じるであろう未来の出来事に思いをはせるような「想像力」をもって講義に臨むことを期待する。
実証分析は知識とコンピュータ操作のスキルを同時に積み上げていく学問なので継続的な取り組みが要求されることを肝に銘じてほしい。教科書の例題を用いた練習も行うので、毎回必ず持参すること。

〔実務経歴〕
統計解析ソフトウェアの数式による理論面も含めた統計解析ソフトユーザへの教育に長くたずさわってきました。積極的にソフトウェアを活用して、経済理論を検証しながら色々なデータ分析に挑戦する授業を行います。

授業スケジュール	
第1回	テーマ（何を学ぶか）： イントロダクション/母集団と標本、統計的推論/相関と因果/和記号の性質 教科書第1、2章
第2回	テーマ（何を学ぶか）：確率論の復習1 教科書第3章
第3回	テーマ（何を学ぶか）：確率論の復習2 教科書第3章
第4回	テーマ（何を学ぶか）：統計的推論の復習1 教科書第4章
第5回	テーマ（何を学ぶか）：統計的推論の復習2 教科書第4章
第6回	テーマ（何を学ぶか）：単純回帰分析1 教科書第5章
第7回	テーマ（何を学ぶか）：単純回帰分析2 教科書第5章

第8回	テーマ(何を学ぶか):重回帰分析1 教科書第6章
第9回	テーマ(何を学ぶか):重回帰分析2 教科書第6章
第10回	テーマ(何を学ぶか):重回帰分析3 教科書第7章
第11回	テーマ(何を学ぶか):操作変数法1 教科書第8章
第12回	テーマ(何を学ぶか):操作変数法2 教科書第8章
第13回	テーマ(何を学ぶか):パネル・データ分析1 教科書第9章
第14回	テーマ(何を学ぶか):パネル・データ分析2 教科書第9章
第15回	テーマ(何を学ぶか):マッチング法 教科書第10章
試験	レポート課題の提出

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
ファイナンス理論	2 単位	専門科目 展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
國方　明	**時間：第 1 回授業で伝えます。** **場所：525 号室**	講義

〔科目の概要〕

注：以下の文章では、3 年生の科目名(金融経済学 I)を使って説明します。4 年生と過年度生は、文章中の「金融経済学 I」を、「金融経済学」)に置き換えて読んでください。

本科目では、金融にかかわる経済学のうち、証券や証券市場にかかわる部分をより深く学びます。

金融経済学 I では、ミクロ経済学の知識を使って、金融に関する最低限の理論を学びました。しかし、これらの科目は基幹科目なので、高度な知識な理論を取り上げにくいです。また、時間などの理由により、これらの科目で取り上げられない論点があります。例えば、金融経済学 I で、証券市場を取り上げました。しかし、証券市場で大きな役割を果たす証券会社については、時間の関係で省略しました。

本科目は展開科目なので、金融に対して興味・関心の強い学生に対して、金融経済学 I よりも高度な知識と理論を教えます。但し、本科目は全 15 回しか授業がないので、次の 3 種類の議論だけを取り上げます。

① 本科目第 1 回と第 2 回：金融資産が取引される証券市場の議論、金融経済学 I 第 4 回の応用です。
② 本科目第 3 回～第 8 回：金融資産の価格付けに関する議論、金融経済学 I 第 6 回～第 10 回の応用です。
③ 本科目第 9 回～第 15 回：派生商品などの議論。

また、本科目の名前は「ファイナンス理論」なので、理論の紹介が中心になります。但し、理論を理解するために必要な範囲内で、現実の制度を紹介します。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

＜他の科目との関連付け＞

本科目は、金融経済学 I、ミクロ経済学、応用ミクロ経済学と統計学の知識に基づきます。まず、本科目の内容は、金融経済学 I の内容を発展させたものです。そして、金融経済学 I で、皆さんはミクロ経済学を金融に応用した理論を学びました。次に、金融の分野では、将来に

また、本科目で教えた知識を、金融機関論(3 年次秋学期、展開科目)で応用する予定です。

＜学んだことが何に結びつくか？＞

本科目では、金融経済学 I よりも高度な理論と、(最低限の)制度的な知識を教えます。この結果、現実の金融市場に対する理解が深まると期待します。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

＜最終目標＞

・現実の金融市場を理解できるようになる。

＜中間目標＞

・金融市場にかかわる専門的知識を身につける。
・金融市場にかかわる制度を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

2021 年度のファイナンス理論では、授業日時(木曜日 5 時限)が就職関係イベントと重なって、出席できない履修者がいました。このため、2022 年度は授業日時を木曜日 5 時限から変更する

〔教科書〕

本科目では教科書を使わず、ハンドアウト(俗にいうプリント)を用います。ハンドアウトは下記参考書に基づいて作成されています。

〔指定図書〕

該当無し。

〔参考書〕

参考書 1：大村敬一、『ファイナンス論』、有斐閣、2010 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)
参考書 2：大村敬一・俊野雅司、『証券論』、有斐閣、2014 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)

〔前提科目〕

ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、統計学、金融経済学Ⅰ

私は上記科目の単位を取得していない人の履修を制限しません。但しこの人は、各科目のシラバスで指定された教科書などを自習してください。

金融経済学Ⅰと本科目の関連について、**〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と、皆さんへの要望〕**で述べています。そちらをご覧ください。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

小テスト(択一式)1 回、及び、期末試験(択一式と記述式の併用)の総合評価に基づき、各履修者を評価します。小テストや期末試験以外の機会は一切ありません。また、全ての履修者を同じ基準で評価します。

第 1 回の授業で詳細を連絡します。

〔評価の基準及びスケール〕

小テストと期末試験の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを定めます。

A: 80%以上
B: 70%以上、80%未満
C: 60%以上、70%未満
D: 50%以上、60%未満
F: 50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内や学内掲示などで連絡します。
- 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明を行います。できる限り出席してください。
- 本科目は金融経済学Ⅰで教えた内容を前提として、それに補足説明を行います。つまり、本科目自体は、金融経済学Ⅰほど体系だっていません。このため、金融経済学Ⅰを履修しなかった人や、金融経済学Ⅰを履修してD評価またはF評価を得た人は相当苦労するでしょう。これらに該当する人は、本科目を履修するか否かを十分に考えてください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談)を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。

〔実務経歴〕

公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、現実の金融市場を理解できるように、金融経済学よりも高度な理論と制度的な知識を身につける授業です。

授業スケジュール
(履修者の理解度、新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、変更する可能性があります。
もし、変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 証券市場と証券会社 内　容: 金融経済学Ⅰ第 12 回を復習して、証券会社の主要業務を学びます。 参考書 1 の第 10 章第 10.1 節。参考書 2 の第 14 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):株式の売買注文とその処理 内　容:株式の売買注文の特徴を学びます。また、注文処理にかかわるルールを 2 つ学びます。 参考書 2 の第 5 章第 3 節。
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):株式の投資指標(単一銘柄) 内　容:個別企業の株式のパフォーマンスを測る指標を学びます。ここでは、個別銘柄のパフォーマンスに注目しています。ポートフォリオのパフォーマンス指標を第 7 回で教えます。 参考書　該当無し。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 証券の投資収益率にかかわる回帰分析 内　容: 証券の投資収益率を、データを使って分析する場合の回帰式を学びます。また、ポートフォリオのリスクを、システマティック・リスクとアンシステマティック・リスクの 2 種類に分けて説明します。 参考書　該当無し。

第 5 回	テーマ(何を学ぶか): CAPM(1) 内　容: 第5回と第6回で、第4回で紹介した回帰式の理論的基礎を学びます。この理論をCAPM(Capital Asset Pricing Model)と呼びます。CAPM は、一定の仮定を置いたうえで、証券市場が均衡する時に成り立つはずのリターンとシステマティック・リスクの関係を描きます。 第 5 回では、証券市場の均衡を図示します。 参考書 1 の第 8 章。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): CAPM(2) 内　容: 第5回の議論と、金融経済学Iで学んだ裁定取引の理論を併せて、リターンとシステマティック・リスクの関係を図と数式で描きます。 参考書 1 の第 8 章。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):ポートフォリオのパフォーマンス指標 内　容:CAPM を応用して、ポートフォリオのパフォーマンスを測る指標を 3 つ学びます。 参考書 1 の第 9 章。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):CAPM の現実への拡張 内　容:CAPM は精緻であるとともに実用性の高い理論です。しかし、非現実的とも考えられる仮定に基づきます。そこで、CAPM の仮定の一部を外した、より現実的な拡張モデルが開発されています。その拡張モデルを学びます。 参考書 1 の第 8 章第 5 節、同第 10 章。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):先渡取引 内　容:金融経済学 I と本科目第 8 回までで、証券の売買、つまり証券と代金とを交換する取引を教えました。この種類の取引を、原資産取引といいます。本科目第9回～第13回では、原資産取引から派生する取引を教えます。派生して生み出される商品を、派生商品またはデリバティブズといいます。 第 9 回では、派生商品のうち先渡取引を学びます。 参考書 1 の第 11 章第 3 節。参考書 2 の第 10 章。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):オプション取引①・専門用語など 内　容:派生商品のうちオプション取引を教えます。オプション取引は、権利の売買です。売買対象の権利は、「買う権利(コール)」と「売る権利(プット)」の 2 種類に分かれます。したがって、オプション取引に参加する投資家の立場は、「コールを買う」、「コールを売る」、「プットを買う」、「プットを売る」の 4 種類に分かれます。これら立場などを学びます。 なお第 10 回の授業内で、小テストを実施する予定です 。 参考書 1 の第 12 章。参考書 2 の第 11 章。
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):オプション取引②・コールの価格決定理論(1) 内　容:裁定取引の理論を応用して、コールを売買する際の価格の決定理論を学びます。 参考書 1 の第 12 章。
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):オプション取引②・コールの価格決定理論(2) 内　容: 第 11 回で学んだ理論を、複数期間に拡張します。また、リスク中立確率という概念を学びます。 参考書 1 の第 12 章。
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): オプション取引③・プットの価格決定理論 内　容:第11回と第12回の理論を、プットの価格決定に応用します。その際、プット・コール・パリティという関係を利用します。 参考書 1 の第 12 章。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 複数取引を組み合わせた取引(1) 内　容: 第 14 回と第 15 回で、原資産取引、先渡取引、オプション取引を組み合わせた取引を学びます。第 13 回で学んだプット・コール・パリティも、この取引の一種です。第 14 回では、プット・コール・パリティについて、図を使って理解を深めます。 参考書 2 の第 11 章。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 複数取引を組み合わせた取引(2) 内　容: プット・コール・パリティ以外の取引を学びます。 参考書 2 の第 11 章。
試　験	期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
社会保障論	2 単位	展開

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
大矢　奈美	**時間:** 授業の開始時に提示します。 **場所:** 研究室(523)	講義

〔科目の概要〕

我が国では、少子・高齢化の進展により、医療、介護、年金などといった社会保障制度の重要性が高まっている。また、新型コロナウイルス感染拡大によって鮮明になったように、日本においても深刻な貧困問題が存在しており、その対応の多くを担うのが社会保障制度である。一方で、今後の社会保障関連支出増大をにらみ、税や社会保険料負担の引き上げ、逆に社会保障給付の削減などが検討・実施されている。これらの政策をどのように評価することができるのか。

この講義では、まず社会保障とは何か、その理念とは何かということについて考える。社会保障制度は、「互いに助けあい支えあう」ことを基本として成立しているものと考えられるが、実際の運用には資金が必要となる。これを誰がどのように負担するのかということは重要な問題だろう。よって、本講義では、日本の社会保障制度の概要を主に経済の側面から分析する。

社会保障は範囲も広く、多岐にわたっているため、残念ながら全ての分野について取り上げることは難しい。そこで個別の制度としては、公的年金と医療制度、および生活保護を取り扱い、それ以外の制度はレポート課題の設定などによって受講生が独自に学ぶような仕組みにしたい。また、社会保障制度は社会の変化に対応する必要もあるため、政府内でも継続して改正案が検討され、細かな変更が重ねられている。また、新型コロナウイルス対応で例年とは異なる要素もある。本講義では、制度に関しては2022 年 3 月時点の現行制度のうち普遍的なものを主な対象とし、適宜、改革案などについて紹介することとする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

現代日本人の生活は、社会保障制度によって支えられている。たとえば公的医療保険。日本では一部の例外を除き、全国民が加入することになっており、自己負担 3 割で医療サービスを受けることができるが、産業構造や日本人の年齢構成が変化し、医療が高度化していくなかで、この医療保険制度も様々な問題を抱えている。公的年金制度も、私たちが意識している以上に身近な存在だ。長生きをしてしまうリスクだけでなく、たとえば働き盛りに事故に遭遇し障害をおってしまうリスク、家族を遺して死亡してしまうリスクが発生した際に所得を保障する役割を持っている。しかし、人口構成の変化によって給付水準の維持が難しくなり、それが制度に対する国民の不安・不信をもたらすという悪循環や、非正規雇用の拡大にともなう国民年金の保険料未納問題や将来の低年金リスクなど、公的年金制度が抱える問題も多い。果たして、多くの報道記事に見られるように日本の社会保障制度は信頼に値しないものなのだろうか。

講義を通じ、社会保障制度とは何か、どのような理念に立つものか、現行制度の仕組みや問題点、どのような方向性が望まれるのかを考えることにより、この問題への答えの手がかりを得ることができるかもしれない。

この講義では社会保障の問題を日本経済と結び付けて検討するというアプローチをとる。よって、1 年時次に履修する日本経済概論、２年次に履修するマクロ経済学の知識を前提とする。社会保障関連支出を考えるにあたっては、政府の財政状況に関する知識（財政学）、経済統計で扱った統計に関する知識も必要になる。また社会保障制度には雇用・生活扶助に関するものも含まれるので、労働経済学にも重なる分野でもある。これらを履修済みであることが望ましいが、財政学、労働経済学の関連する分野については講義中に適宜説明することを考えている。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・社会保障の意義について、受講生自身が、自分の意見を持つ。
・日本の社会保障制度の枠組みを把握する。
・公的年金、医療制度、公的扶助の概要を理解し、これらの制度改革に対する自分なりの意見を持つ。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

板書について改善をもとめる意見が見られた。設備上の限界はあるが、今年度も板書等の文字は見やすいものになるよう心がけ、細かなデータはできるだけ配布資料にするといった工夫を考える。

〔教科書〕
特に指定しない。

〔指定図書〕
・椋野・田中『はじめての社会保障』（第19版）有斐閣，2022年3月末刊行見込み（たぶん）
・小塩隆士『社会保障の経済学』（第4版）日本評論社，2013.

〔参考書〕
・西村淳編著『入門テキスト　社会保障の基礎』東洋経済新報社，2016.
その他、必要に応じて授業中に提示する。

〔前提科目〕
マクロ経済学、財政学、労働経済学　など。
財政学、労働経済学に関連する分野については講義中に適宜説明を加える予定であるが、特に財政学は履修済みもしくは履修中であることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
・理解度確認のためのクイズ
・小レポート
・期末試験（筆記）

〔評価の基準及びスケール〕
小レポート、クイズ、期末試験の合計の80％以上をA、70％以上80％未満をB、60％以上70％未満をC、50％以上60％未満をD、50％未満をFとする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
受講生の理解度を見ながら進度を決定するので、シラバスの通りには進まない可能性がある（制度変更の状況にも左右される）。また、一つのテーマを複数時間に分けて講義するので、可能な限り出席するようにすること。出席はとらないが、出席していることが基本であるから、それを前提に講義を進める。

限られた授業時間数の中では、個別の社会保障制度について詳細に説明するのは難しく、また受講生にとっても講義のみで理解することは不可能だと思う。すくなくとも制度の概要程度は、指定図書を参考に、自ら把握するよう自習すること。椋野・田中『はじめての社会保障』は制度について詳細かつ丁寧に整理されている。
社会保障は、私達の生活に深い関わりあいを持っている。自分なりの興味や関心を持って、授業に臨んでほしい。

〔実務経歴〕
なし

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）：　社会保障とは何か 内　容：　ガイダンス、社会保障の考え方（1）　社会保障とは何か、歴史的展開 教科書・指定図書　　椋野・田中（2022年3月末刊行予定のため、該当する章については講義の中で説明する。以下、同様），小塩（第1章）など
第2回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　社会保障の考え方（2）　日本の社会保障制度の展開と時代背景 教科書・指定図書　　椋野・田中
第3回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　社会保障の考え方（3）　政府の介入が必要とされる理由、負担と給付のあり方 教科書・指定図書　　小塩（第1章）

第4回	テーマ（何を学ぶか）：　社会保障と国民負担・財政収支（1） 内　容：　国民経済計算，マクロ統計からみた社会保障 教科書・指定図書　　小塩（第2章）
第5回	テーマ（何を学ぶか）：　社会保障と国民負担・財政収支（2）、社会保障の担い手 内　容：　財政収支と国民負担 　　社会保障における実施主体 教科書・指定図書　　小塩（第2章）
第6回	テーマ（何を学ぶか）：　所得再分配に対する社会保障の役割 内　容：　日本の所得格差、再分配後の所得格差 教科書・指定図書　　小塩（第3章）
第7回	テーマ（何を学ぶか）：社会保障制度の概要についてのまとめ 内　容：社会保障制度の概要の確認　および　クイズによる理解度の確認
第8回	テーマ（何を学ぶか）：　公的年金制度 内　容：　公的年金制度の意義と体系、財政 教科書・指定図書　　椋野・田中，小塩（第4章）
第9回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　公的年金制度の理念と仕組み 教科書・指定図書
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　公的年金制度の抱える問題点と制度改革 教科書・指定図書　　小塩（第4～6章）
第11回	テーマ（何を学ぶか）：　医療保険制度 内　容：　医療保険制度の理念と仕組み（1） 教科書・指定図書　　椋野・田中，小塩（第7章）
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　医療保険制度の理念と仕組み（2） 教科書・指定図書
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　医療保険制度の抱える問題点 教科書・指定図書　　小塩（第7・8章）
第14回	テーマ（何を学ぶか）：公的扶助 内　容：　生活保護制度の概要 教科書・指定図書　　椋野・田中
第15回	テーマ（何を学ぶか）： 内　容：　生活保護制度の課題 教科書・指定図書　　椋野・田中，小塩（第10章）
試 験	これまでの内容について筆記試験をおこなう

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経済特殊講義Ⅲ	2 単位	専門科目 選択

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
堤　　静 子 TSUTSUMI Shizuko	時間：質問は講義で配付するコメントシートで。 場所：　ー	講義

〔科目の概要〕

近年、「地域づくり」や「地域活性化」といったフレーズをよく耳にするようになり、地域経済、地域産業に対する興味・関心は高まりをみせているが、地方の人口減少の影響もあり、地域経済を支えてきた産業も低迷していることも事実であり、様々な課題を抱えながらも、新たな産業振興策や地域産業の創出に関する取り組みが進められている。

本講義では、地域と産業の関わりを捉え、地域を支えている産業の現状を把握し、地域資源を活用した新たな取り組み事例を紹介し、地域資源を活かした地域力向上策や地域産業振興に向けた地域ブランドの確立等、地域住民や自治体の政策について学ぶ。また、新たな地域産業として、地域住民が主体となり、ビジネスの手法で地域課題を解決するコミュニティビジネスも育ってきており、まちづくりも含めた様々な取り組みについても考察する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

地域産業を通じて地域の特性、市場を知り、地域資源の活用事例や地域産業活性化、振興のための事業活動等について具体的に学ぶことで、地域社会のあり方を考え、自分たちが暮らす地域の課題解決の方策策定や、新たな価値創出に向けた取組に関する思考力を高めることができる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・地域産業の現状と地域と課題を理解し、自分なりの課題解決策をイメージできる。
・地域産業を通じて地域資源の活用手法や地域産業振興のための具体的方策について修得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

毎回、前回の講義のふりかえりをし、わかりやすい授業を心がける。

〔教科書〕

毎回の講義でレジュメを配付する。

〔指定図書〕

なし。

〔参考書〕

講義内で適宜紹介する。

〔前提科目〕

特になし。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

出席状況、講義内に実施する小テスト、定期試験により総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

評価　：得点比率
Ａ　：　80％　～　100％
Ｂ　：　70％　～　80％未満
Ｃ　：　60％　～　70％未満
Ｄ　：　50％　～　60％未満
Ｆ　：　50％未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

青森県はもちろんのこと、学生の皆さんそれぞれの生まれ育った地域など、様々な地域への興味・関心、理解を広げ深めてほしい。また、次の授業へ活かすために、毎回コメントシートを配付し、授業の理解度の確認を行う。

〔実務経歴〕

市場調査・マーケティングリサーチ会社経営の実務経験や地域活性化に資するような地域活動に取り組んでいる経験を活かし、最新の各種データや実際に活動した地域事例等を紹介するなどして、興味・関心を持って、地域産業を通じて地域の理解を深めてもらえるように努める。

授業スケジュール	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション・産業とは 内　容: 授業の進め方や学修内容、評価方法などについてのイントロダクション。 産業とは何か？経済の基本問題について 講義配付レジュメ
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 地域とは 内　容: 地域とは何か？地域を学ぶ意義について 講義配付レジュメ
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 地域産業政策の変遷 内　容: これまでの地域における産業政策の変遷について 講義配付レジュメ
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 地域の産業構造 内　容: 人口と産業構造の変化について 講義配付レジュメ
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題① 内　容: 農業・林業について 講義配付レジュメ
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題② 内　容: 水産業について 講義配付レジュメ
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題③ 内　容: 製造業について 講義配付レジュメ
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題④ 内　容: 交通・運輸について 講義配付レジュメ
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題⑤ 内　容: 観光業について 講義配付レジュメ
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題⑥ 内　容: その他各種産業について 講義配付レジュメ

第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源を活用した事業事例① 内　容: ものづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源を活用した事業事例② 内　容: まちづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 地域産業モデル① 内　容: 海外地域モデル 講義配付レジュメ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 地域産業モデル② 内　容: 国内地域モデル 講義配付レジュメ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源の付加価値力 内　容: 地域産業振興に向けた地域ブランドの確立 講義配付レジュメ
試　験	期末試験を実施する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域の産業Ⅱ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
（まつだ　えいじ） 松田　英嗣	**時間:** **場所:**	

〔科目の概要〕

・ 地元金融機関出身者で、現在は地域シンクタンク勤務の講師が本科目を担当します。
・ 経済の興味深いトピックスなどを交えながら、地域の経済や産業を概観する内容です。
・ 各授業の前半は、日本経済新聞などの経済記事をもとに経済の仕組みや当該記事の意味を受講生の皆さんとともに考えながら、地域経済や産業を見る目を養います。
　各授業後半は、県内産業の現状等を確認しながら、地域が抱える課題と地域産業のかかわりなどについて学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・ 今学生の皆さんが、今後社会に出て数十年を過ごす中では、これまで誰も直面したことの無い、正解のない課題にたくさん直面します。そうした局面において、しっかりとした自分なりの見方、考えを構築する力が求められます。
・本科目では、経済・産業を切り口としながら、正解のない課題に対応するために求められる思考力を身に付けます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・ 中間目標：経済系の学部生として、社会で当然に求められる最低限の力として、日本経済新聞を自力で読むための知識を身に付ける。

・ 最終目標：多様な経済ニュースに対して自分なりの解釈ができる応用力を身に付けることにより、正解のない課題に直面した際の考え方の基本的姿勢を習得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・ マスク着用時の声のトーンや学生間の「密」を避ける工夫をします。

〔教科書〕
・ 都度、レジメを準備します。

〔指定図書〕
・ 必要に応じ、都度指示します。

〔参考書〕
・ 必要に応じ、都度指示します。

〔前提科目〕
・ なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

・ 出席状況を含む授業の取り組み姿勢 30%、筆記試験 70%の割合で総合的に評価します。

〔評価の基準及びスケール〕

・ 当大学のスタンダードを基準とします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・ 受講学生の理解と興味を深めるため、経済の話をできるだけ簡潔に理解できるよう努めるとともに、実務経験に基づく事例や最新の経済ネタを取り上げます。
・ 受講者との双方向性を確保するため、発言を求める場面も設定します。

〔実務経歴〕

・ 地方銀行および地銀系シンクタンク(現職)

授業スケジュール	
第１回	テーマ(何を学ぶか)： ガイダンス 内　容: 授業の進め方説明、日本経済新聞について 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第２回	テーマ(何を学ぶか)： 経済の基本的見方１ 内　容: 経済とは何か？　経済に慣れる 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第３回	テーマ(何を学ぶか)： 経済の基本的見方２ 内　容: 需要と供給から経済を考える　経済的考え方に慣れる 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第４回	テーマ(何を学ぶか)： 経済の基本的見方３ 内　容: 地域産業と人口減少　人口減少のインパクトを考える 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第５回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済１ 内　容: 青森県経済を俯瞰する「県民経済計算」の見方 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第６回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済２ 内　容: ビジネスモデルを考える　コンビニエンスストアやりんご産業からビジネスモデルを考える 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第７回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済３ 内　容: 攻めの農林水産業を考える　県農業をもとに特化係数を使いこなす 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第８回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済４ 内　容: 製造業の可能性を考える　経済波及効果の考え方 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第９回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済５ 内　容: 小売業を中心に三次産業を考える　買い物難民 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ

第10回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済6 内　容: 観光関連産業を考える なぜ数少ない成長産業として期待されるのか 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第11回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済7 内　容: IT 産業を考える 地域課題解決を図る地域企業の紹介 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第12回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済8 内　容: 地方創生と地域活性化の活動 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 青森県の産業・経済9 内　容: 地域金融機関と労働需給 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 復習 まとめ 内　容: 1～13 回を振り返る 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
第15回	テーマ(何を学ぶか)： 復習 まとめ 内　容: 1～13 回を振り返る 教科書・指定図書 ： 教員作成レジメ
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域みらい特殊講義Ⅱ	2 単位	展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
柏谷　至 KASHIWAYA Itaru	**時間:** 授業開始前・終了後各 30 分程度 **場所:** 非常勤講師控室	講義

〔科目の概要〕

この授業のテーマは、「エネルギーから見た地域社会論」です。

エネルギーは、私たちの生活に必要不可欠な要素であり、エネルギーの利用形態によって地域社会のありようは大きく変化します。近年では、地球温暖化や原発事故のようなグローバルな課題だけでなく、エネルギー費用が地域外に流出することによる地域経済への影響なども問題視されるようになってきました。こうした状況のもとで、地域にあるエネルギー資源を活かし、地域に利益が残るかたちで利用する「エネルギー自立」の考え方が広まりつつあります。

青森県は、冬期間の暖房を中心にエネルギー消費量が全国より多く、特に化石燃料への依存度が高いという特徴があります。豊かな自然環境を背景に再生可能エネルギーのポテンシャルが高い一方で、地域外資本による開発事例が多く、地域社会に利益が十分に還元できていないことも課題です。

授業担当者は環境社会学者として教育・研究に従事しながら、「自然エネルギーを通じた循環型社会の実現と地域の自立」をミッションとするNPOの理事長を務めています。この授業では県内外の事例を紹介しながら、地域のエネルギー自立に向けた現状と課題、将来展望を考えます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

エネルギーというと、科学技術の問題（=いわゆる「理系」の人が考えること）と考えられがちですが、地域のエネルギーを考える際には、人々の意識から生活、組織、経済や制度・政策にわたるさまざまな側面を、トータルに考える必要があります。この授業は「特殊講義」のひとつとして、地域の社会・経済・政策に関して皆さんが今まで学んできたことを活用し、地域の未来について自ら考える機会と位置づけられます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標:

・エネルギーの観点から地域の現状・課題を把握し、解決策を提案できるようになる

中間目標:

・エネルギーと地域社会との関係についての基本的な知識を身につける

・「エネルギー自立」の考え方とその手法を理解する

・自らが住む地域の現状や課題を、エネルギーの問題と結びつけて考えることができるようになる

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

2021 年度の授業評価をうけ、講義中の音響設備を適切に利用するなどして、学生の皆さんが理解しやすい講義に努めていきたいと思います。

〔教科書〕

特に指定しません。

〔指定図書〕

特に指定しません。

〔参考書〕

枝廣 淳子 2018『地元経済を創りなおす―分析・診断・対策』岩波書店.

藻谷 浩介・NHK 広島取材班 2013『里山資本主義―日本経済は「安心の原理」で動く』角川書店.

田中 信一郎 2018『信州はエネルギーシフトする―環境先進国・ドイツをめざす長野県』築地書館.

〔前提科目〕

特に指定しません。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

各回の授業では、次回の授業の予習となる課題を出します。課題の内　容としては、テーマに関する短いテキストや動画を見たり、皆さんの身近なエネルギーについて調べたりして、ワークシートに記入して提出してもらう予定です。

また、毎回の授業の最後には、その日の講義内 容に関する質問の時間を取ります。質問者には、質問内 容とそれへの答え、質問をしてみての感想を提出していただきます。15 回の講義の中で、2 回以上質問することを義務づけます。

この授業の最終評価物として、再生可能エネルギーや省エネルギーを活用して地域の課題を解決するための企画提案を、レポートとしてまとめてもらいます。15回の授業の後半は、レポート作成に向けたワークシートを作成・提出してもらいます。

以上の 4 点、すなわち (1)予習ワークシートの提出、(2)授業中の質問、(3)企画提案ワークシートの提出、(4)最終レポートの内 容を総合して、この授業の評価とします。

〔評価の基準及びスケール〕

各評価項目は、予習ワークシートの提出10点、授業中の質問 20点、企画提案ワークシートの提出10点、最終レポートの内 容 60 点で点数化します。なお、最終レポートは、(1)テーマ設定の独創性、(2)企画としての実現可能性、(3)レポートの文章力と資料活用の適切性、から評価します。

100 点満点の評点を、大学の成績評価基準に従って A～F のグレードに評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

この授業では、単にエネルギーに関する知識を伝えるだけでなく、地域の課題に取り組むことの面白さや難しさを学生に体験してもらいたいと思っています。そのため、授業方法として講義形式のほか、ワークショップや学生による企画立案・プレゼンテーションを取り入れる予定です。

学生には、授業中および授業外学習での主体的な参加を期待します。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーから地域社会を考える (イントロダクション) 内 容： エネルギー自立を目指す地域の取り組みの実例を紹介し、この授業全体のねらいを示すとともに、授業の進め方や学修内容、評価方法などについてイントロダクションを行う。
第2回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(1)・エネルギー自立の考え方 内 容： エネルギー自立の考え方が登場してきた背景や先駆的な実践例を紹介し、エネルギー自立の基礎概念について学ぶ。
第3回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(2)・風力 内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしての風力発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第4回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(3)・太陽光と太陽熱 内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしての太陽光発電の特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第5回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(4)・バイオマス 内 容： 代表的な再生可能エネルギーとしてのバイオマスエネルギーの特徴と、それを活用した地域活性化の取り組みについて学ぶ。
第6回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会(5)・省エネルギー 内 容： 代表的な省エネルギーの取り組みとして、住宅の高気密・高断熱化によって快適性と省エネルギーとを両立させる取り組みについて学ぶ。
第7回	テーマ(何を学ぶか)： エネルギーと地域社会 (中間まとめ) 内 容： これまでの講義を振り返りながら、エネルギーと地域社会との関わりや、再生可能エネルギー・省エネルギーを地域課題の解決に結びつける方法論を学ぶ。
第8回	テーマ(何を学ぶか)： ワークショップ(1) 内 容： ワークショップを通じて、再生可能エネルギーと省エネルギーを地域課題の解決に役立てる手法を自ら体験する。

第9回	テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(1) 内 容: 地域事業の企画・立案の出発点となる地域資源の種類や規模、資源利用に当たっての制約条件について学ぶ。
第10回	テーマ(何を学ぶか): 地域エネルギー事業の実際(2) 内 容: 地域エネルギー事業を運営していく際のビジネスモデルや収益構造・コスト構造や、資金計画について学ぶ。
第11回	テーマ(何を学ぶか):地域エネルギー事業の実際(3) 内 容: 地域エネルギー事業を運営する主体と組織形態、ステークホルダーとの関係、法的規制と政策について学ぶ。
第12回	テーマ(何を学ぶか):ワークショップ(2) 内 容: ワークショップを通じて、最終レポート作成に向けた企画のアイディア出しと相互評価を行い、エネルギーを通じた地域課題の解決を実践するためのトレーニングをする。【企画提案ワークシート提出日 (予定) 】
第13回	テーマ(何を学ぶか):エネルギーから見た地域社会の未来(1) 内 容: 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る。
第14回	テーマ(何を学ぶか):エネルギーから見た地域社会の未来(2) 内 容: 受講者が企画立案した地域エネルギー事業プランを発表し、最終レポートに向けたブラッシュアップを図る (第14回の続き)。
第15回	テーマ(何を学ぶか):エネルギーから見た地域社会の未来(3) 内 容: 前回までに発表された地域エネルギー事業プランを振り返りながら、この授業で学んできたエネルギーと地域社会との関わりについて、総括的な議論を行う。
試 験	レポート

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営革新論Ⅰ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田泰亮　Ikuta Yasuaki	**時間:** 後ほど指示します。 **場所:** 1305 研究室（大学院棟）	講義

〔科目の概要〕

経営において、新たな視点や価値を見出すものとしてのイノベーションは、その実現可能性や持続可能性をも問わなくてはならない。こうした意味から「事業創成のプロセスとしてのイノベーション」を学ぶことは、やがてビジネス・リーダーとして期待されるみなさんにとって、学んでおくべき重要な内容である。

前半は、シュンペーター、ドラッカー等をもとに、イノベーション本来の意味、イノベーションが経営や経済に与える影響について講義する。中盤からは、「事業創成の理論（小林敏男『事業創成　イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。）」をもとに「イノベーションと事業」の関係を講義する。様々な事業での実践例をもとに、創造的な技術やアイディアが持続可能な事業と成るまでのプロセスを学び、真のイノベーションとは何かを考える。

後半は、ビデオ学習により、学んだ概念やモデルの理解度を深めることとする。

また、秋学期開講の「経営革新論Ⅱ」と大いに関連性があるので、両講義ともに受講することを強く推奨する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

経営経済の問題を考える際に「イノベーション」は、よく耳にする言葉であるが、本講義では、イノベーションの本来の意味を理解し、現代企業の事業戦略をしっかりと学習し、戦略的発想力、戦略策定力を身につけてほしい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標:様々な企業の事業戦略を読み解く力を身につける。

最終目標:事業創成（事業の創造から実行可能性、持続可能性まで）を考える力を身につける。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

専門用語等で難しいとの意見がありますが、使用している教科書のレベルが極端に難解であるということはありません。事前に予習し、わからないことは、講義中、講義終了後、オフィスアワーなど、遠慮なく質問してください。

〔教科書〕

小林敏男『事業創成　イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014 年。

他、適宜資料を配布する

〔参考書〕

伊丹敬之『先生、イノベーションって何ですか？』PHP 研究所、2015 年。

J.A.シュンペーター著、清成忠男編訳『企業家とは何か』東洋経済新報社、1998 年。

P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳『イノベーションと企業家精神【エッセンシャル版】』ダイヤモンド社、2015 年。

C.クリステンセン著、玉田 俊平太 監修、伊豆原 弓 翻訳『イノベーションのジレンマ―技術革新が巨大企業を滅ぼすとき〔増補改訂版〕』翔泳社 2001 年。

A.ガワー、M.A.クスマノ著、小林敏男監訳『プラットフォーム・リーダーシップ―イノベーションを導く新しい経営戦略』有斐閣、2005 年。

G.A.ムーア著、川又政治訳『キャズム Ver.2 増補改訂版 新商品をブレイクさせる「超」マーケティング理論』翔泳社、2014 年。

M.E.ポーター著、竹内弘高訳『〔新版〕競争戦略論（Ⅰ）（Ⅱ）』ダイヤモンド社、2018 年。

O.E.ウィリアムソン著、浅沼萬里、岩崎晃訳『市場と企業組織』日本評論社、1980 年。

〔参考書〕

なし

〔前提科目〕

経営学基礎論を履修し単位取得していること。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

小レポート（50%）　※複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。

学期末の定期試験（50%）

※無断欠席は評価の際に減点とする。

〔評価の基準及びスケール〕

80%以上　A　　79–70%　B　　69–60%　C　　59–50%　D　　49%以下　F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 事例においては、かなり難解な技術や様々な業界について取り上げることになります。専門技術や未知の分野に対して学習する基礎力が身について欲しいとと考えています。丁寧に説明するよう心がけますが、予習をしっかりとしてください。様々なイノベーションの事例を学び、柔軟な思考力を養って欲しいと考えています。質問や学習相談などは遠慮なく。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション 内　容: 講義内容と進め方について（※講義についての説明を行うのでシラバス持参のこと） 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):シュンペーターのイノベーション論(1) 内　容:経済発展と経営者、企業者の役割 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):シュンペーターのイノベーション論(2) 内　容:新結合としての5つのパターン 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):ドラッカーのイノベーション論(1) 内　容:イノベーションのための7つの機会 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):ドラッカーのイノベーション論(2) 内　容:イノベーションと企業家精神 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(1) 内　容:教科書 第1章 古典的戦略論 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(2) 内　容:教科書 第2章 イノベーションのジレンマ 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(3) 内　容:教科書 第3章 オープンイノベーションへの展開 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(4) 内　容:教科書 第4章 プラットフォーム・リーダーシップ 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(5) 内　容:教科書 第5章 キャズムの発見 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(6) 内　容:教科書 第6章 エコロジカルニッチの薦め 教科書・指定図書

第12回	テーマ(何を学ぶか):事業創成の理論(7) 内　容:教科書　補論　組織間関係の経済学 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):ケース・スタディ(1) 内　容:ビデオ学習を予定 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):ケース・スタディ(2) 内　容:ビデオ学習を予定 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):講義全体のまとめ 内　容: 教科書・指定図書
試　験	有(詳細は後日、指示する)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域企業論Ⅰ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田　泰亮 IKUTA Yasuaki	**時間:** メールか直接アポイントメントを **場所:** 1305 研究室	**講義**

〔科目の概要〕

「地域に根ざした企業の経営を学ぶ」が本講義のテーマである。地域企業論Ⅰでは「地域と企業の基本的関係」「企業の構造と機能」「地域の産業構造と事業戦略」を理解するための基本的な概念枠組を学ぶ。また事例を紹介しながら「地域で企業を経営する」ための基礎的な知識や理論、昨今の地域と企業に関する動向を学ぶ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

複眼的思考を身につけなければ、地域のビジネス・リーダー、コミュニティ・リーダーとして活躍することは難しい。本講義は、１年次で学んだ内容を基本としつつ、多くの選択必修科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」であると認識してほしい。本講義で新たな知見を得るとともに、これまで学んだ講義の復習であり、これから学ぶ講義にとっては予習となることが多々あるだろう。関連づけ、反復することで「有効な思考法」として身につく。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

地域企業論Ⅰ，Ⅱの両講義を通じて、以下のような目標とする。

（１）地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための専門用語を理解し「基礎知識」を身につける。
（２）地域企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」のための基本的な理論を身につける。。
（３）地域企業の経営政策、事業戦略についてケース・スタディを行い、その成果として「問題解決策の立案」としての「戦略策定」や「政策提言」ができる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

「説明がわかりやすい」「質の高い講義内容」といった高い評価が多数ありました。一方で少数ながらも、これらの高い評価と相反する様な意見もありました。可能な限り対応していきますので、質問や相談は早めに遠慮なくお願いします。なお、シラバスに記載し、講義中にもお伝えしている事項について、十分に理解されずに受講されている方が見受けられます。履修されるか否かは、シラバスをよく読み、初回の講義での説明をよく聞き、検討し、ご理解いただいた上で決めてください。受講態度の悪い学生（遅刻、欠席）、周囲の迷惑（私語）になるような行為には厳しく対処します。

〔教科書〕

・なし。毎回資料を配布。

〔指定図書〕

・三戸浩、池内秀己、勝部伸夫『ひとりで学べる経営学（改訂版）』文眞堂、2021 年。
・塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男『経営管理［新版］』有斐閣、2009年。
・M.E.ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論（Ⅰ）（Ⅱ）』ダイヤモンド社、1999 年。
・O.E.ウィリアムソン著、浅沼萬里、岩崎晃訳『市場と企業組織』日本評論社、1980 年。
その他、適宜指示、紹介する。

〔参考書〕

〔前提科目〕

「経営学基礎論」を履修し、単位取得していること。また「有効な思考法」を身につけるためには、経済学、財務分析などの基礎知識も必要となる。関連する科目を履修している、あるいは今後の履修科目について計画的に考えたえで、履修することを強く推奨する。特に秋学期の地域企業論Ⅱを受講することも念頭に本科目を受講することを強く推奨する。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

理解度テスト（20%）
課題レポート（30%）複数回実施する予定。詳細は講義内で説明する。
学期末の定期試験（50%）
※講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。
無断欠席や課題レポートの未提出については、評価において大幅に減点する。

〔評価の基準及びスケール〕

80%以上　A　　79−70% B　　69−60% C　　59−50%　D　　49%以下 F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

ポイントを絞りつつも他の科目との関連性をしっかりと解説し、他の専門科目を深く学ぶ動機づけになるように心がけたい。毎回のテーマ、キーワード、問いやトピックに対して、疑問を持って講義に臨んでほしい。

秋学期の地域企業論Ⅱでは『中小企業白書』を取り上げ、統計データの分析、地域における企業経営に関するケース・スタディ等を行う。こうしたことを通じて、地域企業を取り巻く環境分析、最新の動向を読みとく力、企業経営における戦略策定、地域産業への政策提言を行う力を身につけることを期待している。そのためには、地域企業論Ⅰでの学習内容が基礎となるので、この点も留意して履修してほしい。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）：イントロダクション 内　容：　講義内容と進め方について （※講義についての説明を行うのでシラバス持参のこと）
第2回	テーマ（何を学ぶか）：現代社会における地域と企業（1）現状と課題の概観 内　容：地域社会に与える企業の影響を考える。 なぜ、ねぶた祭りに企業は協賛するのか？
第3回	テーマ（何を学ぶか）：現代社会における地域と企業（2）基本概念の整理 内　容：経営経済学的な「地域社会」の理解（地域、市場、産業、政府・自治体、企業、個人）
第4回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（1）地方と都市と企業の歴史的考察 内　容：農村社会と近代都市、工業都市をキーワードに コミュニティとアソシエーション、２つの原理とその重層性について学ぶ
第5回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（2）われわれの生活と地域、企業 内　容：人口問題を中心に地域社会と企業の関係を考える。「極点化社会」「表日本と裏日本」
第6回	テーマ（何を学ぶか）：地域社会と企業（3）現代のコミュニティ問題と地域企業 内　容：労働、雇用機会の変容、地域社会を支える企業、業種転換・市場拡大を試みる中小企業
第7回	テーマ（何を学ぶか）：理解度テストと前半のまとめ 内　容：講義時間内に基礎知識の定着のために理解度テストを実施する。前半のまとめを行う。

第8回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（1）企業の成長・発展段階、企業の存在意義の変容 内　容： 経営体として企業を理解するための基礎的概念(企業、経営、事業)を学ぶ
第9回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（2）様々な企業観と企業の種類 内　容：経済学的、経営学的な企業観、法的制度としての企業、その種類について学ぶ
第10回	テーマ（何を学ぶか）：企業の構造と機能（3）利益から考える企業の存在意義 内　容：財務会計学的な企業理解、「利益」の現代的意義(マルクス、ウェーバー、ドラッカー)
第11回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（1）資源、技術、商品、市場からの環境分析 内　容：経営資源や技術、商品、市場の観点から事業を考える。
第12回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（2）産業の立地条件 内　容：M.E.ポーターの理論を中心に、競争要因、競争優位性、産業の立地条件を学ぶ。
第13回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（3）企業間関係論、戦略的提携の視点 内　容： 産業構造を理解するために、組織間関係の理論（企業集団、系列化、戦略的提携）を学ぶ。
第14回	テーマ（何を学ぶか）：事業論（4）競争のない新たな市場開拓　ブルー・オーシャン戦略 内　容：競争市場から独自の新たな市場空間を目指すための諸概念を学ぶ。
第15回	テーマ（何を学ぶか）：春学期全体の振り返りとまとめ、秋学期に向けての課題 内　容：
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域社会論Ⅰ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
佐々木　てる	**時間：授業開始時に指示** **場所：授業開始時に指示**	講義

〔科目の概要〕

青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼（都市型の祭り）が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数％に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。

青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年のべ 300 万人がおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。

本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。

こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイディアをより専門的で、地元に根付いた視点から提出するときに役立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワードな視点に生かすこともできりょうになるだろう。

扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会学的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会学的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標：地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭りやイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかに、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。

中間目標：身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会学的な地域社会学的な視点である。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業に受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。

また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。

〔教科書〕

特になし

〔指定図書〕

特になし

〔参考書〕

下記の本を参照することが望ましい。

宮田登／小松和彦『増補版　青森ねぶた誌』青森市、2016年

河合清子 2010『ねぶた祭 ――″ねぶたバカ″たちの祭典』角川書店

〔前提科目〕

特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に 0～5 点で評価で行う。また中間時に小テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。
・コメント用紙は一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。
・また 30 分以上の遅刻は欠席とする。なお欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている。
・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。
・授業に関して遅刻してくるもの、興味がないもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。

〔評価の基準及びスケール〕

・試験 60%、コメント用紙 30%、中間テスト 10%として採点する。
A～F の評価は本学の規定に準ずる。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

第一回目の授業時に成績評価の方法、講義の進め方、内容、注意事項、変更点について説明する。そのため、受講予定者はもちろんのこと、受講を考えている学生も必ず出席すること。

前期講義に関しては、特に青森県、青森市のまつりをテーマとし、具体的な日常生活と関連したものを扱う。こういった日常の話題を自分の出身地の文化・風習や、日常生活に結びつけて考えること、すなわち比較できる能力を求めている。また事例を別の事例に応用して、文化発信、ビジネスチャンスなどに結びつけられるか常に考える力が必要といえる。本講義では受動的に、教科書的なことを学ぶのではなく、自らの想像力と発想力をより豊かにするという考えで授業の取り組んでほしい。

なお担当者の専門領域は「社会学」であり、社会学的な視点を理解する力も求められる。そのうえで、経営、経済学との違いを理解し、応用できるよう自らの力で考える姿勢を求める。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第 1 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域と向き合う 内　容: ガイダンス 地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：青森文化を考える視点:グローカル文化を考える 内　容: 地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローカルな視点を考える。 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：祭りとは何か:基本知識① 内　容:基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：祭りとは何か:基本知識② 内　容:現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等ついての意味づけを考えていく。 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)：日常文化と祭礼① 内　容:都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。比較社会学的な視点を重視し、他の祭礼との比較も考える。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)：日常文化と祭礼② 内　容:青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。 教科書・指定図書

第7回	テーマ(何を学ぶか):日常文化と祭礼③ 内　容:前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ、小テスト。 内　容:前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動①:地域ねぶたを考える 内　容:ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。これらの日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動②:ホテル経営と飲食店 内　容:ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していくことの2回目として、客をもてなす、受け入れることについて考える。特に青森市新町のホテルや飲食店などの活動について紹介する。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動③:ねぶた祭りを支える人々 内　容:地域活動を考える第三回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設①:ねぶた師という仕事 内　容:この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設②:囃子 内　容:前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は囃子に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているかを考える。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設③:文化の外部化 内　容:地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には首都圏で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、青森との比較を行う。これによって「祭」の文化としての役割を考える。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):地域社会の未来にむけて。 内　容:講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。 教科書・指定図書
試　験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
マクロ経済学	４単位	専門科目 基礎科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
山本　俊 shunyamamoto0723@yahoo.co.jp	**時間：①授業終了後、②火曜日５限、③随時** **場所：授業初回にアナウンス**	**講義**

〔科目の概要〕

みなさんは、いわゆる「失われた20年」と呼ばれる不況期の半ばに生まれ、その後の緩やかな景気回復期の中で成長してきました。その間に限っても、物価の持続的な低下や、リーマンショックに端を発する世界金融危機、そうした状況からの脱却を目的とした「アベノミクス」などが、毎日のように新聞の記事となってきました。そしてそれらは、家計や企業、政府からなる我が国の生産や消費、投資の全体、すなわち「マクロ経済」に大きな影響を与えてきたのです。この科目を通じて、過去あるいは未来の様々な出来事が「マクロ経済」に与える影響を順序立て説明できるようになり、さらには、自分たちの暮らしへの影響を考えることができるようになって欲しいと思います。そのため、この授業は大きく３つのパートによって成り立っています。

第１は学習意欲を高めるパートです。ここでは、目には見えない「マクロ経済」の可視化に挑戦したり、1920年代の世界大恐慌時における経済学の大転換について紹介したりします。この大転換はケインズによるものであり、学問を現実に即して批判的に考察するというケインズの精神に触れて欲しいと思います。

第２はマクロ経済学の基本的なモデルを学習するパートです。ここでは、財市場と金融市場の双方を考慮したIS-LMモデルや、労働市場を追加したAD-ASモデル、持続的な物価変動と失業を分析するモデル、外国為替を考慮したモデル、経済成長を分析するモデルを学習します。さらには、これらを学ぶために必要な消費や投資、財政、貨幣、為替相場に関する基本事項についても学習します。

第３は第２の学習を基本としつつ、現実の問題を考察したり、公務員試験問題に挑戦したりすることで、理解を確実なものにするパートです。例えば、現実の問題として、世界に先駆けて進められた超金融緩和政策の意義やアジア諸国の経済成長などを扱う予定です。

以上の学習では、考えるプロセスを大切にするため、ミクロ経済学や基礎的な数学（微分、等比級数など）の復習も必要に応じて行います。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

マクロ経済学は、私たちの暮らしと密接に関係する「失業問題」や「物価変動」、「為替相場」、「経済政策」の影響などの見通しを与えてくれるだけでなく、諸君が学ぶであろう「金融経済学」や「経済変動論」、「公共政策論」、「ファイナンス理論」等の基本をなしています。従って、時間をかけて、じっくりと学ぶ必要があります。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標　：①マクロ経済学の規模や物価変動の計測が具体的にできること。
②基本モデルの意味を理解し、公務員試験問題等により定着を確認できること。
（解けるようになると楽しい。ごちゃごちゃした解説を読むよりも、自分の解法を考えて欲しい）

最終目標　：利子率や所得、為替レートなどの変数間の因果関係を理解し、各変数の変化が私たちの暮らしや仕事に与える影響について、見通しを立てられるようになること。
（学んだことを、身近なところから、活用できるようになること）

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

「考えるプロセス」を大切にし、具体的な説明と数多くの問題演習等により、分かりやすい授業を心がけます。

〔教科書〕

・福田慎一、照山博司『マクロ経済学・入門　第５版』有斐閣、2016年
パワーポイントの授業資料、確認問題も配布します。

〔指定図書〕

・中谷巌、下井直毅、塚田裕昭『入門マクロ経済学　第６版』日本評論社、2021年
※長期と短期を明確に区別しており、さらには、2021年２月刊行のためデータも新しく、MMT理論などの新しいトピックも扱っている。教科書よりも突っ込んだ内容となっている。AD-ASモデルや外国為替を含むモデルについては、こちらを参照して欲しい。

〔参考書〕

・N. グレゴリー・マンキュー（著），足立英之他（翻訳）「マンキュー マクロ経済学（第４版）Ⅰ入門篇」東洋経済新報社、2017 年
・N. グレゴリー・マンキュー（著），足立英之他（翻訳）「マンキュー マクロ経済学（第４版）Ⅱ応用篇」東洋経済新報社、2017 年

※世界的に定評のあるマクロ経済学の教科書。分からない部分などを調べるのによい。
・齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久「マクロ経済学 New Liberal Arts Selection 新版」有斐閣、2016 年
※応用的な内容も扱っている発展的な教科書。
・二神考一『マクロ経済学入門　第3版』日本評論社、2017 年
※可能な限り数式を使わず、直感的な説明が多い。私たちの教科書よりも的を絞っている。

〔前提科目〕
・特になし。ただし、ミクロ経済学や経済数学を履修しているとより良い。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
以下の①、②の合計を評価基準に照らして評価します。
① 期末試験の得点：6割
② クイズの得点等：4割

〔評価の基準及びスケール〕

評　価	得　点　割　合	評　価	得　点　割　合
A	100%～80%	D	60%未満～ 50%
B	80%未満～70%	F	50%未満
C	70%未満～ 60%	―	―

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

①考えるプロセスを大切した授業を強く意識します。
②理解を確かなものにするため、確認問題を配布しますので確実にこなしてください。
③不足している予備知識がある場合には可能な限り授業内で補います。
④学習効果を高めるため、教科書の内容が前後したり、教科書にない内容を取り上げたりする場合があります。
⑤試験については、学生の努力が報われるような出題を心掛けます。

〔実務経歴〕
特になし

授業スケジュール

第1回	テーマ（何を学ぶか）：経済、経済学とは何か？＋ガイダンス 内　容：「経済」という言葉を知らない学生は一人もいないでしょう。しかし、その意味を簡潔に述べることは容易いことではありません。この授業では、経済の全体像の可視化に挑戦したいと思います。 教科書・指定図書　：
第2回	テーマ（何を学ぶか）：２つの GDP と GDP の面白ばなし 内　容：GDP には大きく 2 種類ありますので、その違いをしっかり理解してください。 教科書・指定図書　：　教科書第1章
第3回	テーマ（何を学ぶか）：GDP デフレータと CPI 内　容：GDP の計測に関して、物価変動がどうして厄介者なのか、そこにどんな工夫をもって向き合うべきかを理解してください。 教科書・指定図書　：　教科書第1章
第4回	テーマ（何を学ぶか）：マクロ経済学の巨人「ケインズ」の学ぶ姿勢 内　容：皆さんが学ぶマクロ経済学の基本を創り上げたのはケインズです。1923 年の世界大恐慌で生じた大量失業問題に、彼はどのように向き合ったのでしょうか？ケインズの学ぶ姿勢に触れることで、今後の学習意欲を高めてください。また、シフトパラメータという概念も理解してください。 教科書・指定図書　：　教科書第 10 章に関連
第5回	テーマ（何を学ぶか）：消費の拡大には何が必要か？ 内　容：家計の消費を拡大させる要因はなんでしょうか？一方で、消費を抑制した場合には何が増加するでしょうか？こうした視点から経済全体の動きについて考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第2章
第6回	テーマ（何を学ぶか）：日本の貯蓄率の国際比較とその変化 内　容：日本人の貯蓄率は高かったものの、最近はその低下が指摘されています。どうしてこうした変化が生じてきたのでしょうか。その理由を考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第2章

第７回	テーマ（何を学ぶか）：投資と利子率の間には、どんな関係があるのでしょうか？ 内　容：企業の設備投資と利子率の関係をしっかり理解して下さい。ここでの考え方は財市場と金融市場の間の関係性を学ぶ上でも重要になります。 教科書・指定図書　：　教科書第３章
第８回	テーマ（何を学ぶか）：投資はどのように行われるのか？ 内　容：企業の設備投資には、固定資本減耗が生じるだけでなく、費用や時間も必要になります。 教科書・指定図書　：　教科書第３章
第９回	テーマ（何を学ぶか）：　企業の資金調達と家計の資産選択 内　容：我が国の間接金融（銀行借り入れ）の優位を出発点に、企業の資金調達と家計の資産選択について考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第４章
第10回	テーマ（何を学ぶか）：　株価と企業価値に関する２つの理論 内　容：　日経225とは何でしょうか？また、1989年12月29日には何があったのでしょうか。こうした説明から、株価の決定理論と企業価値について考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第４章
第11回	テーマ（何を学ぶか）：どんなときに貨幣が必要になるのか？ 内　容：マクロ経済学に登場する金融資産の中心は貨幣と債券です。では、どんなときに、どちらの金融資産を保有すべきでしょうか？ここでは、債券の利回りの計算についても触れておきましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第５章（※4章も一部含む）
第12回	テーマ（何を学ぶか）：貨幣需要関数の登場 内　容：横軸に貨幣需要量、縦軸に利子率をとった場合、第11回目の内容から、どんなグラフが描かれるのでしょうか？ここでも、シフトパラメータが登場します。 教科書・指定図書　：　教科書第５章（※4章も一部含む）
第13回	テーマ（何を学ぶか）：中央銀行の役割と貨幣需給の均衡 内　容：我が国の貨幣供給の調整は中央銀行たる日本銀行が担っています。では、中央銀行による貨幣供給と私たちの貨幣需要が一致するとき、総生産と利子率はどのような動きを見せるでしょうか？ 教科書・指定図書　：　教科書第５章
第14回	テーマ（何を学ぶか）：LM曲線の登場 内　容：第13回目の内容をもとに、LM曲線を導出してみましょう。また、アベノミクスの流れを汲む現在のような金融緩和策が採られた場合、LM曲線にはどんな影響があるのでしょうか？ 教科書・指定図書　：　教科書第５章
第15回	テーマ（何を学ぶか）：経済分析のはじまり　ー有効需要原理と４５度線分析ー 内　容：ケインズは実際に財やサービスを購入可能な人々の「欲しい」という思いを有効需要と呼び、それに見合った供給が実現すると主張しています。では、こうした考え方を簡単な数式と図を使って表現すれば、どうなるでしょうか？さあ、経済分析の始まりです。 教科書・指定図書　：　教科書第６章
第16回	テーマ（何を学ぶか）：満を持してIS曲線の登場です 内　容：LM曲線の導出にならって、財市場が均衡するような総生産と利子率の関係を図示してみよう。そこに描かれているのがIS曲線です。では、当初アベノミクスが掲げていた財政出動策はIS曲線にどんな影響をもたらしたのでしょうか？ 教科書・指定図書　：　教科書第６章
第17回	テーマ（何を学ぶか）：中間クイズ 内　容：ここまでの学習内容に関してクイズを実施し、その内容について解説し、理解の定着を図ります。 教科書・指定図書　：　教科書第６章
第18回	テーマ（何を学ぶか）：IS-LM分析①ークラウンディング・アウト効果ー 内　容：財市場と貨幣市場が同時に均衡するとき、失業はゼロになっているのでしょうか？もし、失業者が発生している場合、ケインズの指摘のように財政出動策によって雇用対策を実施すれば、思わぬ副作用が発生してしまいます。これがクラウンディング・アウト効果です。 教科書・指定図書　：　教科書第７章

第19回	テーマ（何を学ぶか）：IS-LM分析②　ー流動性のわなと問題演習ー 内　容：失業問題を金融緩和政策によって対応すれば、クラウディング・アウト効果は発生しません。しかし、金融緩和策が有効に機能しないケースも存在します。それが流動性のわなです。 教科書・指定図書　：　教科書第７章
第20回	テーマ（何を学ぶか）：IS-LM分析③　ー投資の利子弾力性がゼロのケースと問題演習ー 内　容：第18回目の授業で学んだように、金融政策が有効に機能しないケースは他にもあることが知られています。それは投資の利子弾力性がゼロのときです。 教科書・指定図書　：　参考書　中谷他（2021）の６章などをご覧ください。
第21回	テーマ（何を学ぶか）：財政出動の後遺症とは？ 内　容：「10万円の特別定額給付金は、現在の皆さんが将来の皆さんからした借金のようなものです。よって、返済に向けて貯蓄しておかなければならないので、消費にはつながりにくいのです」という考え方を皆さんはどう思いますか？国債の中立命題について学習します。 教科書・指定図書　：　教科書第８章
第22回	テーマ（何を学ぶか）：超金融緩政策の効果とは？ 内　容：ここでは、名目利子率やと非伝統的金融政策を学んだ上で、日本銀行のマイナス金利政策や上場投資信託などの購入の必要性と効果について考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第６章
23回	テーマ（何を学ぶか）：労働市場の導入 内　容：IS-LM分析に、労働市場を追加し、AD-AS分析へと発展させます。ここでは、労働者錯覚モデルによりAS曲線を導出しますが、教科書ではあまり触れられていないので、集中して受講して下さい。 教科書・指定図書　：　教科書第10章及び中谷他（2021）の第９章
第24回	テーマ（何を学ぶか）：物価水準の決定 内　容：ここでは、AD-AS分析によって、物価水準が決まるメカニズムを学習します。ここも、教科書ではあまり触れられていないので、集中して受講して下さい。なお、 詳しくは参考書に指定してある中谷他の９章等を参照ください。 教科書・指定図書　：　教科書第９章及び中谷他（2021）の第９章
第25回	テーマ（何を学ぶか）：インフレとデフレ 内　容：ここでは、失業率と物価変動との関係（フィリップス曲線や自然失業率仮説など）について考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第10章
第26回	テーマ（何を学ぶか）：経済成長の理論と成果 内　容：ソローの成長会計を学習し、経済成長の要因について理解しましょう。その後、デニスンによる高度成長期当時の成長要因に関する国際比較や、失われた10年当時の日本の成長要因について学習します。また、中国や東アジアの経済成長についても考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第11章
第27回	テーマ（何を学ぶか）：国際マクロ経済学① 内　容：これまで輸出入については考えてきませんでしたが、ここでは、対外経済取引ついて説明した後に、海外との取引を含めたマクロ経済学の理論を学習します。 教科書・指定図書　：　教科書第12章及び中谷他（2021）の第７章
第28回	テーマ（何を学ぶか）：国際マクロ経済学② 内　容：為替相場制度の歴史的な推移と２つの制度の違いについて考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第12章及び中谷他（2021）の第７章
第29回	テーマ（何を学ぶか）：国際マクロ経済学③ 内　容：IS－LM分析に、為替相場を含めることで、国際マクロ経済学の基本的な理論モデルを学習します。これはマンデル＝フレミング・モデルと呼ばれるものです。 教科書・指定図書　：　教科書第12章及び中谷他（2021）の第７章
第30回	テーマ（何を学ぶか）：国際マクロ経済学④ 内　容：２つの為替相場制度の下で、経済政策の効果がどのように異なるのかを考えてみましょう。 教科書・指定図書　：　教科書第12章及び中谷他（2021）の第７章
試　験	これまでの学習内容に関する期末試験（筆記試験）を実施します。